

第十三編

生活と文化



# 第一章 市民生活の推移

第一節は下巻に登載

## 第二節 市民生活運動

新生活運動 昭和三十五年頃から始まった新生活運動は、新生活運動委員会の起案になる「冠婚葬祭の簡素化」、「時間の励行」、「環境の美化」等の基準によって一応の成果をおさめ、市民一体の運動として実践化が図られてきた。しかし、高度経済成長による生活のゆとりとともに、経済活動との調和、地域による意識の格差等の問題点も生じるようになりマンネリ化の方向も見られるようになった。

滝川市社会福祉協議会江部乙町地区「生活を見直す」実践委員会では、昭和五十四年九月、常に運動そのものの見直しと時代認識の確認が大切であるとの考え方から、「生活を見直す」運動推進に関する地区住民を対象としたアンケート調査を行った。その主なものをみると、まず結婚祝賀会に関して、祝賀会の簡素化をすすめることが、必要だ八三パーセント、必要なし一五パーセント、という結果であるが、二十歳台の人では、必要だ四一名、必要なし二一名と接近しているのが注目される。必要ありの理由は、年々派手になっている。会費が高いの二点に集約される。次に市内の公共施設での

祝賀会は会費に一定の制限をすることについては、制限することがよい九〇パーセント、よくない七パーセント。その場合の会費の額については、三、〇〇〇円四六パーセント、三、五〇〇円二三パーセント、四、〇〇〇円一七パーセントという結果が出た。また、祝賀会では引物が出されるが、その引物が家庭で利用されているかとの間に、利用している二四パーセント、利用していない七二パーセント。更に、引物は必要かとの間に対して、出さない方がよいが六九パーセント、やはり出すべきだが二八パーセント、の答えが出た。

次に葬儀については、生花の必要が、有りと答えた人は三〇パーセント、必要なし二七パーセント、式場内に飾る数を規制する四一パーセント。また、葬儀に出されるハンカチ等のお返しは、必要だ二七パーセント、必要なし七〇パーセント。香典の金額規制の必要性について、必要あり三二パーセント、必要なし六四パーセントの結果であった。

次に病氣見舞のお返し（全快祝い）について、お返しをもらう立場として答えを求めたところ、必要あり二五パーセント、必要なし七一パーセントという数字がまとまった。

江部乙町地区実践委員会では、このアンケート調査結果から、次のような新生活運動「生活を見直す」実践要項を作成、地区内全戸に配布、各町内会において要項をより抛とし、それぞれが自主的に取り組むことが運動の実質的向上につながるものと考え、ねばり強く各自の生活意識の改革に努力している。

『生活を見直す』実践要項

◎結婚祝賀会の簡素化を。祝賀会については、住民のみなさんが共に協力しあい、経済的にも負担のかからない、人生の門出にふさわしい祝賀会を普及しよう。

- 1、祝賀会の会費は、五、〇〇〇円以内で実施しよう。
  - 2、引き出物は廃止しよう。
  - 3、祝賀会の案内は、新郎新婦を中心にごく親しい人にしよう。
  - 4、お色直しは、ひかえめにしよう。
  - 5、案内状やしおりの作成は、発起人の手づくりでしよう。
- ◎葬儀や骨上法要の簡素化。葬儀や骨上法要は、厳粛に行い経費の節減にとめよう。

- 葬儀は………
- 1、香典は一般の人で、三、〇〇〇円以内にしてよう。
  - 2、香典のお返しは、廃止しよう。(お礼状のみとする)
  - 3、葬儀の供花は、四個以内としよう。生花のむだをなくするため、供花用台紙に名前を書いて掲出し、供花料は喪主にさしあげることとしよう。
  - 4、葬儀の祭壇は、経費をかけないようにしよう。
  - 5、斎苑の送迎には、社協マイクロバスを利用しよう。
- 骨上法要は………
- 1、法要に招く範囲は、ごく身近な方を中心にしてよう。
  - 2、法要の料理は簡素にしよう。交通事故防止の上からも、家庭に持ち帰り家族全員で故人を偲ぶようにしよう。

- ◎お見舞など一般交際の合理化を。病氣、災害見舞などのお返しを廃止し、礼状をもってこれにかえよう。
- 1、病氣、災害見舞は、三、〇〇〇円以内にしてよう。
  - 2、出産祝は、三、〇〇〇円以内にしてよう。(お返しは一、〇〇〇円以内)
- ◎時間を大切に。
- 1、集会は時間通りはじめよう。
  - 2、欠席、遅刻の場合は事前連絡をしよう。
  - 3、集会や会議は効率的に行い、時間のムダを省こう。
- ◎国旗の掲揚を。
- 祝日には、国旗を掲揚しよう。

**滝川公害防止協会** 滝川市は経済社会の進展に伴って起り得る公害問題は益々複雑多岐になり、住民への影響が心配されるところから、公害の未然防止にとめ住みよい健康都市づくりをすすめるため、公害防止協会の育成強化をはかり連携してその実効をあげるよう努力してきた。

滝川公害防止協会は昭和四十七年十月、市内の事業団体と主旨賛同者が寄り集い結成、郷土の環境保全と企業の健全な発展を期し、自主的な点検、測定調査、広報等による啓発、技術講習等の研修事業を推進し大きな足跡を残している。昭和六十三年度分における公害防止法に基づく届出件数は次のとおりである。

(設置・廃止届を含む)

		事業所		施設数	
ばい煙	二件	八基	騒音	六件	一八基
粉じん	三件	一二基	振動	六件	一三基

歴代会長

初代 少覚 納(昭四七〜昭五〇)  
 二代 香西 弘(〇五〜〇五六)  
 三代 上田 茂(〇五七〜〇六〇)  
 四代 中島 清作(〇六一〜現在)

**公害防止**

経済社会の発展に伴って、公害問題はますます複雑多岐にわたり、住みよい健全なまちづくり推進のため各種の施策が講じられてきた。

## 北興化学工業株式会社の工場誘致についての公害防止確約書

昭和四十四年に北興化学工業株式会社北海道工場を誘致するにあたって、滝川市農協協議会と滝川市長が滝川市議会議長を立会人として確約書を交わした。

### 確約書

北興化学工業株式会社工場誘致施設に伴って公害等に関する諸事項について、左記のとおり市の責任において善処することを確約する。

一、施設 (1) 機械設備に関しては公害等の発生要因となる箇所に充分留意され、最高の公害防止設備をもって公害などの発生が生じないという条件の下に施設すること。(2) 排水施設については、有害水の完全処理を絶対条件とするが、工場から放水する水路の downstream に水田農家が多数あるので、作物の害になるような放水はいっさいしない。(3) 建物は付近住民の意志を尊重し特に果樹園からできるだけ離れて建設するよう配慮すること。

二、公害 公害については基本的に発生しないという条件によって処理されたとしても、万一工場側の管理、操業のミスによって発生した場合等を考慮して次のように措置する。

- (1) 関係者代表による公害防止対策協議会（仮称）を設置し、公害発生防止に万全を期し、関係住民から調査依頼があった場合にはすみやかに調査し、協議会を開催すること。
- (2) 特定農薬（PCP類）の製造については、作物に対する被害発生危険度が高いという角度から五月～八月は製造を行わないこと。
- (3) 万一被害が発生した場合には、市が全責任を負って最善の解決にあたること。
- (4) 公害発生による補償費については、公害防止対策協議会の結論に基づき早急に支払うことを条件とし、遅れる場合は市が立替払いをすること。

昭和四十五年五月二十六日

滝川市長 佐久間 貞江

立会人滝川市議会議長 石黒 貞一

これは誘致する企業が、毒物劇物等を取り扱うということから、

## 第一章 市民生活の推移

昭和四十四年五月二十五日滝川市農協協議会が公害問題について「声明書」の形で市に出されたことが発端となり、翌二十六日に確約を交わしたものである。また、北興化学工業株式会社取締役社長名において、同年六月十七日付で滝川市長に対し確約書を提出している。

翌四十五年三月二日確約書に基づき「北興化学公害防止対策協議会」が設置された。構成は、滝川市、滝川市議会、滝川市農業委員会、滝川市農業者協同組合、滝川市農民協議会、滝川市果樹組合、空知東部地区農業改良普及所、滝川市八丁目支線組合、滝川市東八農事組合、北興化学工業株式会社北海道工場の十団体となり、毎年一回の会合を現在も行っている。その後、構成団体も一部変わり、平成二年四月現在では次のとおりで、会長は滝川市助役、副会長は滝川市議会副議長があたっている。

構成団体 滝川市、滝川市議会、滝川市農業委員会、滝川市農協協議会、滝川の川防除組合、空知東部地区農業改良普及所、滝川市八丁目第二支線組合、滝川市東八農事組合、北興化学工業株式会社北海道工場

### 赤平製紙との公害防止協定

平成二年九月、滝川・砂川・歌志内の三市で構成する中空知広域水道企業団（企業長・吉岡清栄滝川市長）と赤平市共和において十一月から操業に入る赤平製紙との間で公害防止協定が調印された。この協定は、三市は空知川が水源であるところから、取水口から約七キロメートル上流において、ティッシュペーパーなど家庭紙生産工場から出る廃水（一日平均三、五〇〇トン）をめぐり取り決めて、協定内容は、PH（水素イオン濃度）は6・2～7・8、BOD（生物酸素要求量）

は一日平均九〇PPm以下、SS（浮遊物質）は一日平均九〇PPm以下、最大一一四PPm以下。ということ、いずれも国の水質汚濁防止法の基準よりも厳しい数値になっている。また、赤平製紙は、第三者機関に委託して毎月行う排水口の水質測定の結果を同企業団に報告することになっており、このほか、企業団職員の同社への立ち入り調査を認める条項などが盛り込まれている。

企業団側では、「独自の水質調査も継続していく」と監視活動を確かなものとし、三市の水がめ空知川の水質保全に万全を期している。

### 結婚相談

滝川市より委嘱をうけた八名の相談員によってすすめられている結婚相談は、相談者の居宅を訪問し相談により得られた情報をもとにグローバルで意義ある人生の方向を探るべく、管内十市の相談員による協議会を開くなど（年四回）その業務の推進が図られ、昭和六十三年度分の実績は次のとおりである。

	男	女	計
新規登録者数	一九	六	二五
登録人員数（三月三十一日現在）	四八	二三	七一
紹介人員数	三七	一五	五二
見合い人員数	二七	一一	三八
成立人員数	一二	七	一九
取消し人員数	二〇	一〇	三〇

市民のくらし対比—滝川市の統計

事項	基準	昭53年度末	昭63年度末
人口密度	1㎞ <sup>2</sup>	451人	437人
世帯	1世帯当たり	3.0人	2.7人
出生	1日に	2.0人	1.5人
死亡	1日に	0.7人	0.8人
転入	1日に	10.8人	9.3人
転出	1日に	11.6人	11.3人
結婚	1日に	1.1組	0.9組
離婚	1日に	0.3組	0.3組
自動車	1台当たり	3.3人	2.1人
JR乗客数	1日当たり（滝川駅）	2,058人	1,562人
電話（住宅用）	1世帯当たり	0.9台	1.1台
テレビ	1世帯当たり	0.8台	0.7台
公園	1人当たり	11.7㎡	33.7㎡
水道使用量	1人1日当たり	246ℓ	218ℓ
病院	1病院当たり	1,062人	941人
じん芥排出量	1人1日当たり	1,210g	878g
火災	1件の発生	10日に	24.3日に
救急出動	1件の被害額	7,825千円	8,340千円
犯罪発生	1日に	1.6件	2.5件
交通事故	1日に	2.3件	2.6件
医師	1日に	0.4件	0.8件
警察官	1人当たり	826人	479人
教員（小・中）	1人当たり	732人	652人
市職	1人当たり	児童生徒25人	児童生徒23人
		市民 66人	市民 60.3人

露店の消えた「お祭り」  
平成元年四月十六日夜、市内本町の飲食店街で暴力団の抗争による発砲事件があり、幹部二人が重傷を負った。この事件がきっかけとなって市民による暴力追放運動が展開され、春祭りから、暴力団と深い関係にあるといわれる露店商の出店は禁止された。

小売価格の動向

(資料) 滝川市の統計

品目	銘	柄	単位	昭52	昭54	昭56	昭58	昭60	昭62
まさかほ	丸	切身(制身用)	100g	203	207	224	239	278	276
かれ	丸	丸	100g	37	37	42	52	66	—
さん	丸	まがれい丸、※61年5月から開きに変更	100g	89	114	119	156	195	238
い	丸	丸、※61年5月から開きに変更	100g	29	38	46	62	67	※108
ま	丸	丸	100g	79	52	70	91	62	77
生	丸	切身(紅ざけを除く)	100g	—	—	—	170	188	148
塩	丸	切身( )	100g	234	225	210	168	176	157
た	丸	塩すけそうたら子(並)	100g	—	—	—	339	309	285
豚	丸	上または肩コーヌスライスしたもの	100g	154	140	139	176	179	170
生	丸	中またはもも肉スライスしたもの	100g	273	280	299	319	381	355
鶏	丸	ささみ、※61年5月からブローラム豚肉に変更	100g	150	131	135	134	139	※107
ハ	丸	ブレスハム:級JAS規格品	100g	—	—	—	233	235	226
ソ	丸	ウインナーソーセージJAS規格品	100g	—	—	—	119	119	119
生	丸	店頭売り紙容器入り1,000ml	1個	224	—	—	192	198	190
バ	丸	カルトソ入り225g	1箱	317	336	343	370	375	—
鶏	丸	中玉10個入り	1ケース	225	203	263	201	212	150
き	丸	結球もの	100g	12	13	24	19	18	18
大	丸	結球もの	100g	15	12	17	15	14	16
玉	丸	結球もの	100g	16	15	26	16	15	15
白	丸	結球もの	100g	12	13	18	16	17	17
き	丸	もめん豆腐400g程度	100g	32	44	46	44	49	45
豆	丸	上砂糖1kg袋入	100g	—	—	—	15	15	18
や	丸	普通品1kg袋入	1丁	—	—	—	82	82	80
や	丸	もめん豆腐400g程度	1袋	253	239	274	264	266	253
が	丸	上砂糖1kg袋入	1袋	251	231	276	271	292	291
い	丸	1.65kgびん入	1本	—	525	577	570	726	—
ら	丸	1.65kgびん入、※61年5月から700gポリ容器入り	1本	—	565	581	572	722	※328
ダ	丸	濃口1.8ℓびん入、※61年5月から1ℓポリ容器入り	1本	363	366	436	426	430	※278
ラ	丸	(体積売り)	1本	1,981	2,233	2,682	2,733	2,782	2,653
よ	丸	タンクローリー	4.7m <sup>3</sup>	38	46	81	81	67	42
パ	丸	無鉛	1ℓ	114	119	156	158	145	121
ソ	丸	古紙のもの65m 4ロール	1組	—	—	—	179	195	—
リ	丸	ホルワ <sup>®</sup> のもの60m 4ロール	1組	—	—	—	273	272	255
ト	丸	2.65kg箱入(無リン)	1箱	701	714	890	905	889	893
合	丸	大人総合料金	1回	1,661	1,833	2,049	2,262	2,299	2,454
成	丸	総合サービス料金(中程度)	1回	4,021	4,170	4,337	4,822	4,512	4,658
髪	丸								
洗	丸								
剤	丸								
代	丸								

お祭りと露店の関係は長く続いており、祭りの風物詩的存在で、特に子どもたちも楽しみにしていることでもあり、市内の商工団体や祭典関係者が中心となって秋祭りには復活させたいという要望が高まり、関係方面に要請運動が展開された。

しかし、警察当局としては、暴力団抗争が完全に収まったということでもないし、秩序ある社会生活を維持し、市民生活の安全を第一に考えた場合、秋祭りも露店を認める時機ではないという判断を示したので、滝川市としても再び露店について規制をおこなった。

こうした情勢の中で、少しでも祭りを賑やかにしようと、手づくりの出店を企画した団体もあり、多少は祭りのムードも盛りあがったが、やはり、今までとは異なった淋しいお祭りに終わった。

### 第三節 映画館・劇場・娯楽

庶民にとって最大の娯楽であった映画も、昭和三十年代後半からテレビの普及、ビデオ機器の進歩等の影響をうけて茶の間で楽しむ生活様式や感覚の変化に抗しきれず、数多くあった市内の映画館は相ついで姿を消し、現在では一館しか営業していない状態である。

#### シネマシアター

大町二丁目で長らく営業していた滝川映劇も昭和六十三年になって遂に閉館したが、留萌市で映画館を経営していた工藤征治があとを引き受け、昭和六十三年十月、「シネマシアター」と改称再開し毎日昼夜上映している。

定員 一二八名

株式会社シネマシアター 社長 工藤 征治

※なお駅前再開発ビル内のたきかわホールでは、映画、音楽、美術展等の催しを通して芸術に親しむことができるようになってきているが、映画の上映は極めて少ない。



パチンコ ビックドン

パチンコ 愛好者は年々増加の傾向にあり、今では大衆娯楽の雄として地位を確かなものとしているが、特に最近はその流れを反映してか女性愛好者が増えていくのが特徴的である。滝川には現在七店が営業しているが駐車場整備の郊外型が多くみられるようになってきた。

(有)北星商事企画 本町三丁

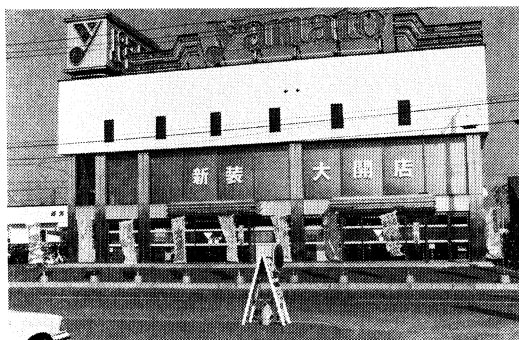


パチンコ 日新

目六番二五号において、平成元年十一月二十八日、「ビッグドン」の商号でオープン。資本金八〇〇万円、敷地六、六一一・五七平方メートル、鉄骨造二階建、



グランド 滝川



パチンコ ヤマト

ホール床面積六、一〇八九平方メートル、駐車場二八〇台収容可、従業員一七名である。社長 朴 基杓

(有)日新会館 本町一丁目一―一、昭和四十一年創業、資本金三〇〇万円、建物構造は鉄筋コンクリート造り五階建、一階をパチンコホールとし床面積三七九・三平方メートル、パチンコ台数三三〇台。現業人員は役員を含め一八名、二階からは飲食テナントが入店している。

代表取締役 韓 孝心(昇真)

パチンコ・ヤマト 西町一丁目三一―一、昭和六十三年三月十五日開店。有限会社パチンコヤマトの経営で資本金二〇〇万円、駐車場には二五〇台収容で



ゴールデン東京



グランド 黄金

きる。従業員四名  
社長 樽井 章

グランド滝川 本町一丁目二―二九、資本金三〇〇万円、敷地面積一、三〇〇平方メートル、建物は昭和六十二年七月改築完成したもので鉄骨造り三階建、延床面積二、二七七平方メートル、駐車場一五台収容可。まちの中心部にあり、創業昭和三十年と最も古く市民娯楽の場として好評を得ている。有限会社五和企業、従業員二七名、社長 上原匡清

グランド黄金 黄金町東三丁目二―一、昭和五十九年七月一日創業したもので資本金三〇〇万円、有限会社五和企業の経営である。敷地面積六、六〇〇平方メートル、建物は昭和五十九年新築、鉄骨造り二階建、延床面積一、一二二

平方メートル、駐車場は三〇〇台収容できる。従業員二〇名。社長上原匡清

ゴールデン東京滝川店 朝日町西二丁目一―三二。昭和五十七年十月三日開業したもので資本金一、〇〇〇万円、ゴールデン東京株式会社の経営する六店舗のうちの一つである。敷地面積一、一九七平方メートル、建物構造鉄骨造り平家建、床面積四四八平方メートル、駐車場は一五〇台収容できる。従業員二〇名。  
代表取締役 玉腰晴香

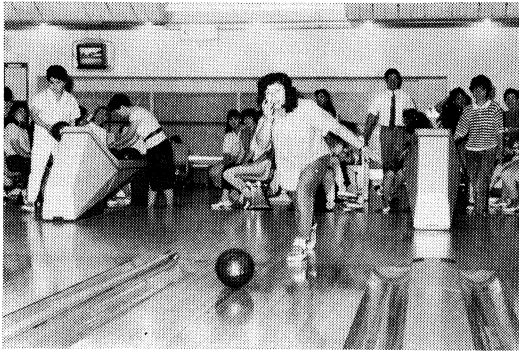
ポパイ遊戯場 栄町二丁目にて営業中。

なお、江部乙町において長年親しまれていたニコニコホールは、昭和五十九年ごろ廃業、詳細は不明。

### ボーリング

昭和五十二年三月アストロポールが閉じられてから滝川市内には皆無になっていたボーリング場が駅前再開発ビル四階に復活、市民の利用度はかなり高くなっている。

西友ボーリング大会



レーン数は二〇、滝川駅前再開発ビル株式会社が管理運営にあつ

## 第二章 通信・報道

### 第一節 郵便

滝川郵便局（大町二丁目四―三六）

昭和五十六年十月、指定局事務再編成により、石狩深川郵便局、砂川郵便局、赤平郵便局の三指定局を吸収統合し、平成二年現在において受持郵便局は六〇局となっている。

- ・組織状況 職員数 局長以下九四名
- 庶務会計課 一七名 郵便課 四五名
- 貯金課 一五名 保険課 一六名
- ・取扱事業（昭和六十三年度）
- 〔郵便〕通常郵便物 引受 四、四四八、二二七通
- 配達 六、〇二六、三三二通
- 小包郵便物 引受 三七、八〇五個
- 配達 五九、六九四個
- 〔貯金〕預入 一八三、六九三件 三一、一三四、三六七、八〇九円
- 払出 八〇、三一二件 三一、〇四三、六八五、四〇一円
- 〔保険〕簡易保険契約件数 二〇、七九二件
- 簡易保険契約保険金 三八〇、八五三、三七一、〇七八円
- 郵便差出箱（ポスト）設置数 四五か所
- ・歴代局長
- 三二代 千葉 忠義（昭五二・七・二六）
- 三三代 秋元 隆（夕五四・七・八）

第二章 通信・報道

- 三三代 中沢 稷（昭五六・七・一七）
- 三五代 金田 肇（夕五八・七・一五）
- 三六代 堰八 定義（夕五九・七・一七）
- 三七代 相馬 知（夕六一・七・一七）
- 三八代 小林 超（夕六二・七・一）
- 三九代 水上 義明（平元・七・七）

江部乙郵便局（江部乙町西二―二一五）

- ・職員数 局長以下 一七名
- 取扱事務（昭和六十三年度）
- 〔郵便〕通常郵便物 引受 一、四五三、四〇六通
- 配達 一、二八五、七三二通
- 小包郵便物 引受 五、六四五個
- 配達 九、二三八個
- 〔貯金〕預入 一五、四八九件 一、三五四、八一四、六二六円
- 払出 一五、九五〇件 一、四六九、一九四、七三四円
- ・歴代局長
- 九代 西岡 重寿（昭四六・二）昭六三・六）
- 一〇代 佐藤 武（昭六三・六）現在）
- 東滝川郵便局（東滝川町三一）
- ・職員数 三名
- ・歴代局長
- 四代 斉藤 宏一（昭五〇・六）三〇）昭六〇・三・三一）
- 五代 斉藤 雄一（夕六〇・四・一）現在）

滝川泉町郵便局（泉町二―八）

- ・歴代局長
- 初代 岩崎 外和（昭三九・一）一六）昭六一・三・二四）
- 二代 南波 卯吉（夕六一・三）二四）現在）
- 滝川黄金郵便局（黄金町東一―一）
- ・歴代局長
- 四代 藤井 政治（昭四五・四）二五）現在）



滝川駅前郵便局

滝川本町郵便局

(本町六丁目一一四)

・職員数 四名  
・歴代局長

九代 河村 久男

(昭四六・二・一五)

一〇代 河村 頼優

(昭六三・六・二三)

滝川駅前郵便局

(栄町二丁目五一二)

昭和五十九年九月、空知通りに駐車場付の局舎を新築移転し現在に至っている。

業務は無集配特定局として、郵便、為替、貯金、保険、年金、恩給等の受払業務を取扱っており、ATM機(自動預金支払機)を設置しサービスに努めている。

・職員数 六名

・歴代局長

初代 藤本 清一(昭一八・六〇昭五八・六)

二代 藤本 清正(ク五八・六〇現在)

滝川有明郵便局(有明町二丁目四一五〇)

西町地区には昭和三十七年十一月「西町簡易郵便局」が設置され、郵便の集配と簡易保険を除く業務を行っていたが、地域の宅地化がすすみ人口が急増したことから、滝川市や地域住民が特定郵便局設置を郵政当局に運動してきたことが奏功、二十一年間にわたり地区住民に貢献してきた西町簡易郵便局は発展的に解消し、有明郵



滝川有明郵便局

便局がバトンタッチしたものである。

・オープン 昭和五十九年十月十五日

・局舎 構造 木造一部二階建

延床面積 一五五平方メートル

・職員数 三名

・歴代局長 初代 荒木

弘(昭五九・一〇・一五〇現在)

滝川滝の川郵便局

(滝の川町西三丁目一一三三)

昭和四十三年三月、滝川市を受託者として滝川市農業協同組合滝の川支所の一部を借り「滝川北滝の川簡易郵便局」が設置され地域住民の生活利便の上に大きな役割を果たしてきた。しかしその後、住宅団地、工業団地の造成がすすみ一大市街地を形成し人口急増地域へと変貌し



滝川滝の川郵便局

たことから需要に応えることが難しくなり、住民から特定郵便局昇格の要望が極めて強く、昭和六十一年十一月二十四日従来の簡易郵便局を発展的に解消し、翌二十五日局舎新築成り滝川滝の川郵便局として開局、現在に至っている。

・職員数 三名

・歴代局長 初代 岡崎 英敏(昭六一・一一・二五) 現在

### 郵便料金の推移

制定・改正年月日	普通料金		備考
	封書	はがき	
昭和五六・一・二〇	六十円	四十円	
平成 元・四・一	六十二円	四十一円	消費税導入によるもの

### 北海道郵便通送株式会社滝川営業所(緑町二丁目七―三五)

昭和三十四年末ごろから郵便物のスピード化を計るため専用自動車の拡張充実がすすめられてきた関係もあって、当営業所では市内はもちろん、浜益・富良野・砂川・歌志内・沼田の各線まで運行業務を担当し繁忙を極めていた。最近までは鉄道輸送されたものを滝川駅から各方面に配送していたが、昭和六十年四月から全面的に自動車による輸送に切り替えられるとともに、輸送システムの機動性が図られたことよって当営業所の所管範囲は、芦別線一日三便、歌志内線一日三便の配送を担当するように変更され現在に至っている。

・歴代所長

四代 椿坂 和幸(昭五二・八) 昭五八・六)

五代 福井 健吉(昭五八・七) 昭五八・一一)  
六代 金子 進(昭五八・一二) 現在)

## 第二節 電信・電話

明治二年の電信業務、明治二十三年の電話が創業以来、永年にわたって電信・電話業務は、国又は国に準ずる公的機関により独占的に運営されてきた。

終戦後、社会経済の発展に伴って電話の需給が急速に高まるとともに、衛星通信、光ファイバー等の通信媒体の技術進歩により複数のネットワーク併存の可能性が実現、自動車電話の普及促進、民間企業の電気通信事業への参入が具体化され、利用者へのサービスはあらゆる面に及ぶようになった。

### NTT滝川営業所

昭和六十年四月、電気通信事業の全分野に競争が導入されたことをうけて、電電公社も民営に移管し、日本電信電話株式会社(NTT)として再生、組織体制の確立が図られた。

滝川については、日本電信電話株式会社滝川電報電話局としてスタートしたが、平成元年四月一日から岩見沢支店滝川営業所として、四市(滝川、砂川、赤平、歌志内)、五町(奈井江、新十津川、雨竜、上砂川、浦臼)のエリアを受け持ち、平成二年十月十九日には、中空知四市五町の市外局番の統一化を図るなど経営母体である中空知市町圏の経済発展と顧客サービスに努めている。

一方、昭和六十一年三月、組織改革による事業部制の導入により滝川統制電話中継所は廃止され滝川電報電話局伝送課に組織改称されたが平成元年三月廃止となり岩見沢支店に統合された。また、パソコン通信方式（昭和六十二年六月）の運用が開始され、オフコンの導入（昭和六十三年一月）、更にはデジタル方式を採用した総合デジタル通信網サービス（ISDN）の運用が開始（平成二年十月）されるなど各種サービスが充実した。

電報業務は、札幌電報営業センターにおいて一括して需要に応じている。

電話加入状況

年度	滝川	江部乙
55	15,523	1,951
56	16,038	1,972
57	16,507	1,978
58	17,188	1,977
59	17,563	1,981
60	18,022	1,984
61	18,397	1,971
62	18,236	1,995
63	18,502	1,989
平成	18,602	2,000

・歴代局長・所長

- 一代 実戸 信明（昭五四・二 二代）長南 隆安（昭五六・二）
- 三代 板橋 隆英（昭五九・二 四代）栗野 明（昭六一・二）
- 五代 下 公司（昭六三・二） 現在

第三節 報道

読売新聞社滝川通信部（朝日町西三丁目七―二〇）

・歴代記者

- ⑦ 綿谷 明（昭五八・七）
- ⑧ 後藤 勝正（昭六一・五）

⑨ 松本 宏敬（昭六二・五） ⑩ 小川祐二郎（平元・五）  
 北海タイムス滝川支社（花月町二丁目一一五）

終戦後新発足した北海タイムスは広く道民に親しまれ、滝川支社も地域の発展を願って真摯な取材報道を遂行してきた。昭和五十七年二月、社内の組織機構改革の必要から滝川支社を閉鎖し深川支社にその業務を統轄された。しかし中空知広域圏としての課題がクロージアップされるようになったことから、滝川支社再設置が検討され昭和六十年一月、花月町一丁目一番十五号に開設、業務を再開した。

・歴代支社長

- 一代 坂上 吉男（昭四八・七）
- 二代 栗林 憲雄（昭六〇・二）
- 三代 佐藤 敏文（昭六二・六）
- 四代 多田 晃（平成元・四） 現在

・担当区域

滝川市、砂川市、赤平市、芦別市、歌志内市、新十津川町、上砂川町、奈井江町、浦臼町、浜益村

北海道新聞社滝川支局（明神町三丁目二―二四）

・担当区域

滝川市、新十津川町、浦臼町、浜益村

・歴代支局長

- 一代 忠沢 保孔（昭五四・三）
- 二代 谷口 芳男（昭五七・三）
- 三代 川越 脩（昭六二・三）
- 四代 渡辺 克己（平二・三）

朝日新聞社滝川通信局（緑町二丁目一―三〇）

・歴代局長

- 七代 平林 敬一（昭五六・八）

- 八代 人見 正秋(昭五九・八)
- 九代 阿部 勇(昭六二・八)
- 一〇代 戸田不二夫(平二・八)
- 十一代 池田 敏行(平二・一二)

毎日新聞社滝川通信部

昭和三十五年五月から柴町において、昭和五十三年十二月からは花月町三丁目において通信部を設置し活動をしてきたが、昭和六十年七月、空知町一丁目五番五号に移転、従来通りの報道活動を活発に継続している。

・歴代通信部長

- 五代 斎藤 誠(昭六〇・九)
- 六代 吉田 競(昭六三・四)
- 七代 杉山 靖雄(平元・一)
- 八代 阿部 孝司(平二・一〇)

空知情報新聞社(花月町三丁目三一二)

滝川を拠点に砂川・赤平・歌志内等の中空知地域を取材範囲とし地域の新しいニュースや、片すみのホットな話題を中心にして地域に密着した情報を提供すべく、平成元年十月五日、「そらち情報」として創刊、月一回の発刊で市民から身近な感覚で親しまれている。

発行者 栗山 弘

ローカル新聞社

川尻貞次が代表者となり昭和四十一年の創刊以来、中空知のローカル色豊かな一般紙として好評を得ていた本紙ではあったが、昭和六十一年十二月八日をもって廃刊した。

株式会社空知新聞社(柴町一丁目五一一七 猪股興産ビル内)

昭和五十四年十月会社設立、「プレス空知」の新聞名で昭和五十

五年六月、創刊号を発刊、滝川・砂川・新十津川の三市町を取材報道範囲とし、地域に生きる人々の話題やよす、行事等を中心に地域活性化の手足となるべく、毎週水・土曜日に発行、地域の人々に広く感読されている。砂川に支局を設置、現業人員は役員を含め一六名、発行部数は八、〇〇〇部である。

なお、空知新聞社では、滝川・砂川・新十津川の三市町を対象として、それぞれの地域振興に尽力されている方々の功労に対して「郷土顕彰」を贈ることとし、平成元年を期して事業を開始した。顕彰内容は、文化・スポーツ・社会福祉等幅広いもので、三市町自治体の協力を得る中で該当する人を選び、毎年三市町複数以上の方々を顕彰している。

- ・歴代役員 初代社主 猪股 栄三(昭五四〜現在)
- 初代社長 田口 修司(昭五五〜現在)
- ・歴代編集長
- 初代 関野 孜(昭五五・六)
- 二代 渡辺 英一(昭六〇・一二〜現在)

北海空知(花月町三丁目五一二四)

昭和四十一年三月、日刊空知新聞社の創設に参加した田中勝雄は、翌四十二年四月株式会社北海空知新聞社を創立し、週刊「北海空知」創刊号を発刊した。以来滝川市内を中心としたローカル色豊かな話題やホットなニュース等を提供し市民から親しまれている。

代表者 田中勝雄

広報たきかわ

毎月一日・十五日に発行されている「広報たきかわ」は、平成二年十月一日付発行をもって一、二八〇号に達し、市

行政と市民との強い絆としての役割を果たしてきた。

昭和二十三年五月三日「滝川町公報」として創刊号が発行されてから「滝川だより」（昭和二十七年）、「市政だより」（昭和三十三年）と改題され、昭和三十八年四月一日号から現在の「公報たきかわ」と表題が改められた。この間、滝川市発展のための諸問題の解決にあたっては、市民とともに考え、市民の理解と協力を基盤に、よみやすく、見やすい紙面づくりを工夫し、内容的にはより多くの市民参加を目指して、人物やサークル等の紹介など市民サイドにたった広報紙づくりに努力している。

（注 第五編第一章第十四節参照）

広報たきかわの受賞歴

昭和四十一年六月二十八日

第十二回北海道広報コンクール入選

昭和五十年八月二十日

第二十一回北海道広報コンクール広報写真の部入選

平成元年十月四日

第三十五回北海道広報コンクール一席入選

平成二年二月一日

第三十六回北海道広報コンクール一席入選

#### 第四節 放送

##### テレビ放送

昭和三十一年、NHK札幌テレビジョン局が放送を開始してから民間放送の参入、カラー放映の実施等テレビジョンの普及はめざま

滝川市におけるテレビ契約受信状況

世帯数	契約総数	カラー一 契約数	契約率	カラー一 普及率	
54	17,257	13,251	11,876	76.8	68.8
55	17,514	13,494	12,332	77.0	70.4
56	17,832	13,629	12,546	76.4	70.4
57	18,012	13,933	12,920	77.4	71.7
58	18,362	14,105	13,165	76.8	71.7
59	18,582	14,292	13,458	76.9	72.4
60	18,700	14,202	13,388	75.9	71.6
61	18,782	14,239	13,466	75.8	71.7
62	18,838	14,326	13,536	76.0	71.8
63	18,824	14,273	13,573	75.8	72.1
平成元	18,839	13,806	13,134	73.2	69.7

しいものがあつた。特に昭和三十九年の東京オリンピックの開催はカラーテレビの普及に大きな役割を果たした。更に世界最初の衛星放送が昭和五十九年五月に開始され、二十四時間放送とともに国際問題も身近に感得できるようになってきた。また録画技術の進歩とソフト面の開発がすすみ、ビデオ利用による放送文化の享受とともにテレビゲームによる娯楽などテレビジョンの市民生活に与える影響は益々大きくなってきた。滝川においてはNHK総合、教育、衛星第一・第二、HBC、STV、HTB、UHBの計八電波の受信が可能である。

NHK滝川通信部（新町一丁目四一〇〇）

・担当区域

滝川市、砂川市、芦別市、赤平市、歌志内市、深川市、新十津川町、浦臼町、沼田町、雨竜町、北竜町、上砂川町、奈井江町、妹背牛町、秩父別町、幌加内町、浜益村

・歴代支局長

高橋 英一（昭五五・八）  
 佐藤 孝志（〃五五・八）昭五九・八）  
 熊谷 達夫（〃五九・八）〃六二・八）  
 上野 卓爾（〃六二・八）現在

・テレビジョン受信状況（資料）NHK岩見沢放送局

年次	契約総数	普 約 数	カ ラ ー 約 数	世 帯 数	全 体 約 率 %	カ ラ ー 約 率 %
五三	一三、二五一	一、三七五	一、八七六	二、二五七	七六・八六八	九
五四	一三、四九四	一、一六二	一、三三二	一、七五二	七七・〇七〇	四
五五	一三、六二九	一、〇八三	一、五四六	一、八三二	七六・四七〇	四
五六	一三、九三三	一、〇三二	一、九二〇	一、八〇二	七七・四七一	七
五七	一四、一〇五	九四〇	一、六五一	一、八三六	七六・八七一	七
五八						
五九	一四、二九二	八三四	一、四五八	一、八五八	七六・九七二	四
六〇	一四、二〇二	八一四	一、三八八	一、七〇〇	七五・九七一	六
六一	一四、二三九	七七三	一、四六六	一、七八二	七五・八七一	七
六二	一四、三二六	七九〇	一、五三六	一、八三八	七六・〇七一	八
六三	一四、二七三	七〇〇	一、五七三	一、八二四	七五・八七二	一

（各年三月末現在）

ラジオ放送 日本放送協会（NHK）が札幌に放送所を設置してラ

ジオ放送を開始したのは昭和三年六月五日からである。終戦後民間放送が認められるようになって、北海道放送（HBC）、札幌テレビ放送（STV）が相ついでラジオ番組を送り出すようになり、ラジオの受信機能も急速に改善向上したと併せ、庶民の生活に大きな活力を与えてきた。

現在、当地方において傍受できる主なラジオ放送は、NHK第一放送、同第二放送、同FM放送、HBC、STV、FM北海道等である。

商業協同組合ショップメイト放送部 株式会社滝川放送協会から市

内街頭放送事業の譲渡申し入れがあり、昭和五十二年九月ショップメイト放送部が発足した。以来、身近な情報を市民に知らせるべく努力してきた。それは商業宣伝を主体としたものだけでなく、放送事業のもつ公共性との融合を図り、社会的使命を果たすものであった。

昭和六十三年四月、市の防災行政無線の開局に伴い、当放送の設備と接続、非常災害における市街地への緊急通報に役立てられるよう情報化時代の新しいまちづくりの一役を担っている。また、平成元年十一月、鈴蘭通り近代化事業に参加、放送線の架空をやめ、地中埋設するなど商店街の美的環境整備に協力、更に、アーケード内のスピーカーにより音質の向上、増設を行い、より正確な情報の伝達を計るなど市民の安全と情報化のための放送事業を目指し鋭意努力している。

### 第三章 社会・文化活動

#### 第一節 文化活動

##### 滝川市文化協会

昭和二十二年、文化的活動を個別に行っている各文化団体の連絡協調を図り、滝川市民の生活文化の向上に役立つ事業を推進し、郷土の文化振興に寄与することを願って結成され発足したものである。

以来、文化に関する調査研究をはじめとし、各加盟団体の連絡、各部門の連携を図るための各種会合、市民文化祭を中心とした各種の発表会、展覧会の開催あるいは各加盟団体の行事への協賛などを主に着実な文化活動を続けてきた。殊に昭和五十六年から行われてきた「古典の会」は、他の市町文化団体にみられない独特な行事であり注目される。

平成元年度現在における加盟団体は次表の如く八五団体にのぼり、協会発足当時の二二団体を思えば、市民の関心の高さとともに、物質文明発達の折、自らの心を見つめ協会に結集し、日常の修練に絶ゆまぬ努力を続ける各団体の在り方が結実の方向にあると云えよう。

会長 坪谷 六郎

滝川市文化協会加盟団体一覧表

民 謡	曲		部門
	三	曲	団 体 名
滝川民謡 (連合) 民謡連合会	隆城会 振興会 研究会	三曲会 琴古流 尺八部会 都山流 尺八部会 山田流山勢派 手島社中 生田流正派 山口社中 米内山社中 榑田社中 北村社中 折笠社中 畑山社中	代表者 日野 鈴 涉 石川 協 山 手嶋 双 勢 山口 雅 榮 優 米内山 雅 榮 泰 榑田 雅 榮 美 峰 北村 雅 榮 秀 峰 折笠 雅 榮 貴 代 畑山 雅 榮 智 都
阿部 弘 桜井 司 太田 忠五郎 山上 晴 春 石坂 繁 夫 石田 昇 峯村 孝 新保 信 義 糸田 百合子 山口 豊 子	岡嶋 孝 城	明神町四一〇―二五 本町五一四―一八 泉町二―一―二五 江部乙町西一―一―四 本町五―二―三 西町二―七―二五 明神町四一〇―二五 泉町二―一―二三 朝日町東三―一―四一〇 札幌市北区新琴似一条 七―七―一〇	住 所
有明町五一―一八四 大町六一―三一―一 花月町一―一―一三 朝日町西二―一―六二〇 明神町四―二―三三四 朝日町西三―一―五―三〇 一の坂町一―二―一―二 砂川市北光八八―三七 柴町四―一―四―一六 砂川市空知太東四―一五	有明町五一―一八四 大町六一―三一―一 花月町一―一―一三 朝日町西二―一―六二〇 明神町四―二―三三四 朝日町西三―一―五―三〇 一の坂町一―二―一―二 砂川市北光八八―三七 柴町四―一―四―一六 砂川市空知太東四―一五	七 五 二 二 八 六 七 三	会 員 数



芸手	道	吟	賞	鑑	鼓	太
日本手工芸指導協会 村山人形サークル	桜雲流 滝川桜雲会 恵桜会 寺井美恵 吉田茂男 香西キク 佐藤鶴子 花月町三二二二五	鶯窓流 滝鶯会 望桜会 荒井八重子 丹野雅子 前田トシ 岳風会滝川道場	滝川菊花同好会 滝川趣味の盆栽会 滝川刀剣会 滝川映画サークル 滝川おやこ劇場 滝川演劇鑑賞会	滝川竜栄太鼓 滝川竜栄太鼓	滝川竜栄太鼓 滝川竜栄太鼓	躍進滝川太鼓
西岡照子 村山千恵子	中田ニサ 明神町一四一五 本町五一一一三 柴町四七七一三	花摘治子 一の坂町東一五一一三 大町四一一一 江部乙町東一〇一三 三九	竹内清美 梶田広行 沢田孚 谷本敏史 岡田陽子 亀谷郁夫	幸町三一八一九 北滝の川一六九 明神町四一〇一八 大町一五七ハイム双葉 扇町二二二二五 緑町三三三三四	柴町三一七一三 明神町四二二三四	石坂繁夫
幸町二一四一二 大町四一五一九	東町一八一三〇	藤丸 柴町二二三二〇 一の坂町東一五一一三 大町四一一一 江部乙町東一〇一三 三九	二五 二七 一五 一五 一一 一八	二〇 八	二〇 八	二〇 八

江部乙町文化団体協議会  
昭和二十八年、江部乙町文化団体協議会結成されたことよって  
これまで個々による活動だけであった各単位団体は、相互の連携が

図られ、日常における活動は活発になり、町文化祭も全面協力の下  
に行われるようになり地域住民の生活文化の向上に大きく貢献でき  
るようになった。また、機関誌「ゆうべおっと」を毎年発行し、各  
加盟団体の活動紹介、江部乙町独自の文化の由来紹介など、文化の  
伝承と向上に寄与するところは大きい。  
平成元年現在の加盟団体は次表のとおりである。

江部乙町文化団体協議会加盟団体

団 体 名	代 表 者	会 員 数	設 立 年 月
江部乙菊花秋香会	早弓房松	二六	昭五・一一
江部乙百葉会	長谷川武次	一一〇	三二・三
江部乙花木同好会	渋谷弘一	六九	五五・二
池の坊社中	山本弘子	一一	一〇・一一
同	大崎千代子	一〇	四〇・四
同	法村昌江	八	三九・八
松月堂古流	長谷川スイ子	六	四二・四
小原流	木村耀子	二八	四六・一一
表千家長谷川社中	長谷川スイ子	一〇	五三・五
裏千家松井社中	松井宗吹	一五	二二・一〇
江部乙書道愛好会	嘉見光義	一二	三五・一〇
北秋書道会江部乙支部	井土登美子	九	五一・九
鷺友会江部乙支部	磯江良子	一四	五七・三
玄楽書道会江部乙支部	中村洋子	二〇	五六・二
江部乙ペン習字同好会	鈴木直子	一二	五六・八

江部乙絵画同好会土筆会	林昌司	一七	二五・一二
江部乙短歌連盟	嘉見光義	二二	三二・四
江部乙俳句会	横山守	一七	二〇・九
生活作文ひろばの会	森本文子	一三	三五・一〇
遊塵会邦楽部	手嶋双勢	一五	一四・四
江部乙民謡研究会	山越正吉	一八	四三・一二
江部乙民謡友の会	高橋栄助	八	六二・一
江部乙カラオケ同好会	竹島正雄	二五	五八・四
江部乙屯田太鼓保存会	鎌田馨	三五	四八・五
日本現代舞踊スズラン会	内田時枝	一三	四〇・六
日本舞踊紫寿の会	菊井房子	五一	三六・四
岳風会江部乙道場	太田吉一	三〇	四三・四
江部乙演劇鑑賞協会	西川福太郎	七	三四・八
江部乙カメラクラブ	泉田正夫	一八	二八・七
江部乙宝生会	吉沢省二	七	二・一二
ダンス同好会	市村春雄	三七	六〇・六
ゴーゴーサークル	森浦貞子	二〇	六一・三
江部乙歌謡愛好会	永井岩雄	一五	六二・四

### 滝川市文化団体連絡協議会

滝川市と江部乙町の合併をうけて、滝川市文化協会と江部乙町文化団体協議会とがあいはからい、相互の連絡提携を図り滝川市民の文化の普及向上に寄与すべく、昭和四十六年両会をもって結成し発足した。

本連絡協議会は、団体相互の連絡調整、情報や資料の交換につと

め、それぞれが開催する行事の支援、市民文化祭の開催、文化功勞者の表彰等を主な事業としている。  
第二十回滝川市民文化祭(平成二年度)は次のように取り行われることになっている。

歴代会長 初代 武田勝夫 二代 坪谷六郎

第二〇回 滝川市民文化祭

一、主催 滝川市・滝川市教育委員会・滝川市文化団体連絡協議会

二、主管 第二〇回滝川市民文化祭実行委員会

委員長 坪谷六郎(滝川市文化団体連絡協議会会長)

三、内容

芸 能 発 表	展 示	滝川会場	江部乙会場
文化センター大ホール 一月三日・四日 二日間 開演 両日とも一三・〇〇 主な内容 三曲・民謡・洋舞・日舞・詩 吟・太鼓・歌謡曲・大正琴・江	美術自然史館 一月一日～四日 四日間 絵画・書道・写真 総合福祉センター 一月三日～四日 二日間 菊花・華道・手工芸・造形美術・文芸・市民作品・茶道(野点)他	滝川会場	農村環境改善センター 一月二日～三日 二日間 絵画・書道・写真・菊花・華道・茶道・文芸・手工芸・他
江部乙公民館 一月三日 一日のみ 開演 一〇・〇〇 主な内容 三曲・民謡・日舞・洋舞・詩 吟・太鼓・歌謡曲・大正琴・江			

文化表彰式	滝川ホテル三浦華園 二月三日 一八・〇〇 被表彰者 ・鈴木隆文(民謡) ・石川協山(三曲) ・野田牧聖(文芸)	合唱・器楽演奏・他 部乙小中学校器楽演奏・他
-------	--	---------------------------

文化功労賞・文化奨励賞 滝川市文化団体連絡協議会では、滝川市の文化振興の上で特に功績のあったと認められた方々に、文化功労賞と文化奨励賞をおくり表彰している。

第五回(昭和五十五年度)

文化功労賞 森本 文字(文芸) 伊藤 有照(茶道)  
 関藤 操(造形美術)

小野木英俊(写真) 平野 通夫(三曲)

文化奨励賞 川野金太郎(民謡)

第六回(昭和五十六年度)

文化功労賞 藤森 純義(文学) 太田 吉一(吟道)

櫛田 美子(三曲) 山越 正吉(民謡)

中村 ムラ(茶道・華道)

文化奨励賞 佐々木 治(美術) 滝川吹奏楽団(音楽)

細田恵美子(華道・茶道)

第七回(昭和五十七年度)

文化功労賞 丹野 雅子(吟道) 嘉見 照子(短歌)

山本 弘子(茶道・華道)

文化奨励賞 田口幸太郎(演劇) 西岡 照子(手工芸)

第八回(昭和五十八年度)

文化功労賞 佐藤 鶴子(吟道) 斉藤 正人(川柳)

石坂 繁夫(民謡・躍進太鼓)

文化奨励賞 林 昌司(美術)

第九回(昭和五十九年度)

文化功労賞 男沢 義久(謡曲) 北村 宗喜(茶道)

次原 清一(造形美術)

第十回(昭和六十年度)

文化功労賞 竹洞 照雄(美術) 鎌田 馨(演劇、屯田太鼓)

文化奨励賞 山上 春一(民謡)

第十一回(昭和六十一年度)

文化功労賞 前田 トシ(吟道) 岡島 孝城(民謡)

第十二回(昭和六十二年度)

文化功労賞 木戸袈津子(謡曲) 吉沢 省二(謡曲)

文化奨励賞 斎藤 露石(書道)

第十三回(昭和六十三年度)

文化功労賞 相川 純子(茶道)

文化奨励賞 阿部 弘(民謡) 寺井 美恵(吟道)

卜部 信臣(郷土史研究)

第十四回(平成元年度)

文化功労賞 岡田 律子(華道) 中田 ニサ(吟道)

見沢 照雄(文芸) 手島 二枝(箏曲・長唄)

第十五回(平成二年度)

文化功労賞 石川 三治(三曲) 鈴木 隆文(民謡)

野田 四郎(文芸)

## 第二節 趣味・芸能

### 滝川珠算連盟

故荒木多美男が昭和二十七年珠好塾を開設して珠算指導を始めてから、市内の珠算熱は急速に高まり、修得希望者の要望に応え数多くの珠算塾が開かれたが、これら珠算塾経営者は珠算普及と技能向上、更に産業発展に寄与すべく滝川珠算連盟に結集し今日に及んでいる。

・全国珠算教育連盟道北支部滝川地区長 梅村 忠雄  
・珠算塾一覧

名称	代表者名	所在地
朝日珠算塾	加藤 裕子	朝日町東一丁目七一八
荒木珠好塾	伊坂多恵子	明神町三丁目七二五
一の瀬珠算塾	田湯 勝子	朝日町西一丁目七一
伊藤珠算塾	伊藤 清子	黄金町西一丁目六一七
梅村珠算塾	梅村 忠雄	一の坂町東一丁目二一
小谷珠算塾	小谷 武司	花月町一丁目一〇一一
堺 珠算塾	川口 民夫	黄金町東三丁目一〇一一二
滝川速算塾	堀江 関子	明神町三丁目三一七
(有) たまえ珠算塾	松田 一枝	緑町五丁目三一二八
たまえ珠算塾	山谷奈賀子	滝の川町東四丁目一一一六
円山珠算塾	円山 京子	江部乙町東二丁目九一四六

本山珠算塾

本山 英治

泉町二丁目三一四三

滝川シレニア会 昭和五十五年、空知川河床で「タキカワカイギユウ」の化石が発見されたことをきっかけに「滝川化石シレニア研究会」として発足した。

昭和六十二年「滝川シレニア会」と名称を変更、現在、小学生からおとなまで一八〇人の会員がおり、毎月一回例会を開き、研究交流を行っている。例会では、化石採集や地層探索(見学)活動を通じて、故郷の歴史を勉強するほか、火の起こし方、野菜の食べ方などユニークな企画も実施し「科学する心」が育つよう工夫している。平成元年四月、一年間の活動をまとめた「シレニアの仲間たち」創刊号を発刊した。

会長 柳 清二

### 滝川アマチュア無線クラブ

本クラブは、滝川市内のアマチュア無線を運用している人々の自主的な集まりで、クラブの目的としては①会員相互の親睦、②技術の向上、③情報の交換等が主たるものとし、社団法人日本アマチュア無線連盟の地域組織としての活動をも行っている。定期例会は毎週水曜日と定め(年間約四八回)、更に、年間六〜七回の行事としての集まりを計画、①無線機器の組立講習、②野外での無線運用の実際、③体験発表交流、④親睦を計るためのボーリング大会やスキージョウなどの集いなど、数多くの活動を行っている。

近年、子どもから大人に至るまでいろいろな職業の人々が興味を

持ち多様化しつつあるところから、会員参加もますます増える傾向にあり今後が期待できる。

本クラブは旧来の無線クラブが一時活動を休止していたのを、昭和六十一年復活、再結成されたものである。

結成年月日 昭和六十一年二月十六日

会 員 数 六二名(平成元年十二月一日現在)

歴代正副会長 会 長 芳賀 征克(昭六一・二)現在

副会長 松本 敏( ) 現在

水原 勝( ) 昭六三・三

渡部千嘉志( ) 〃 〃

田村 敏彦(昭六三・四)現在

村上 哲夫( ) 〃 〃

### ゲートボール協会

高齢者の健康保持と親睦を深めるのに好適なものとしてゲートボールが注目されるようになってから短時日のうちに広く愛好されるようになった。

滝川市住民の間にも愛好者が逐年増加し、組織的に楽しむことができるように協会結成の気運が高まってきた。昭和六十一年四月、関係者が寄り集まり、設立総会を開き「滝川ゲートボール協会」として新発足した。

本協会の主な活動としては、①ゲートボールの普及発達に努める、②技術向上のための情報交換、③大会開催と各種大会への代表者の派遣、④講習会、審判研修会の開催等、活発な活動を展開している。

本協会は、昭和六十二年、六十三年と続けて全日本選抜ゲートボール北海道大会を主催したが、昭和六十三年大会において女子シニアの部で滝川Aチームが優勝という成績を得、翌平成元年、全日本選抜ゲートボール盛岡大会に駒をすすめ、同じく女子シニアの部において滝川Aチームが全国優勝の輝かしい栄に浴した。

現在の会員は、個人会員二五一名、団体会員二三ということであるが、誰にでもできる、分りやすいルール、どこでもできるという簡便さから、本協会に登録しないでゲートボールを楽しんでいる人々は四〇〇人に達しているのではないかと推定され、これからの発展が期待できる。

・設立年月日 昭和六十一年四月一日

・コート 空知川河川敷 十五面(市管理)

### 役員

会長 西野 良吉

副会長 藤田 豊 谷口 茂男

理事長 川口 進

### ゴルフ

◎空知ゴルフ場 砂川市字富平 代表者 川村 幸雄

◎松尾冬季ゴルフセンター 明神町四丁目五 代表者 松尾 健二

◎滝川ゴルフセンター 朝日町東二丁目七 代表者 新保 俊雄

◎滝川市民ゴルフ場 泉町一丁目二

経営者 滝川振興公社社長 吉岡 清栄

(第十三編第三章第六節に詳述)

### 第三節 体 育

財団法人滝川市体育協会 昭和二十四年五月一日、滝川町体育会として出発したが、昭和二十八年十月二十八日、滝川町体育協会と改称、更に昭和五十二年には財団法人組織となって現在に至っている。

同協会は、滝川市のスポーツ団体の連絡、調整、総括にあたり、スポーツの普及振興のために必要な事業を行うとともに、スポーツ施設の運営と充実をはかり、市民の心身の健全な発達と本道におけるスポーツ振興に寄与することを目的としている。

#### 財団法人滝川市体育協会加盟団体

団 体 名	会		TEL
	氏 名	住 所	
一 滝川軟式野球連盟	近藤良四郎	緑町一丁目五十二	二四一六五〇一
二 滝川軟式庭球連盟	柳 清二	明神町一丁目五十三	二三一二三三一
三 滝川卓球連盟	上西 正夫	一の坂町東三丁目四一	二三一三二五四
四 滝川バレーボール協会	石黒 直	大町四丁目一三四	二三一三二〇一
五 滝川バスケットボール連盟	菅原剛太郎	有明町二丁目四	二四一三二二五
六 滝川バドミントン協会	山腰 修司	大町五丁目一八九	二二一八六六
七 滝川剣道連盟	綱淵 正幸	黄金町東一丁目四五	二四一〇一四三
八 滝川柔道連盟	細田 長知	東町二丁目五十三	二三一二九九五

九 滝川アマチュアボクシング連盟	峯村 憲一	空知町三丁目五十二	二四一六六六
〇 滝川陸上競技協会	犬飼 克己	朝日町西二丁目五十二	二二一三〇三〇
一 滝川スキー連盟	居林 幹生	栄町一丁目七十一	二四一五一二二
二 滝川山岳連盟	山岸 敏光	栄町一丁目七十一	二二一二九六四
三 滝川銃剣道連盟	田中 栄一	黄金町西一丁目一二	二三一二九三三
四 滝川クレイ射撃協会	佐藤 吉兼	赤平市豊栄町五丁目九	三一九四八〇
五 滝川弓道連盟	大草 二三	大町二丁目一一一	二三一二五四八
六 滝川体操連盟	石黒 直	大町四丁目一三四	二三一二〇一二
七 滝川市ソフトボール協会	種田 良一	有明町二丁目四五三	二三一二七七八
八 滝川市スポーツ少年団本部	高橋 辰夫	有明町二丁目二四三	二四一六四七〇
九 滝川朝野球連盟	岡田 外之	栄町一丁目一四番	二四一七〇五〇
〇 滝川カヌークラブ	寒河江信寿	本町一丁目五	二三一三三七〇
一 滝川水泳協会	柳 義文	新町一丁目一〇	二三一四四〇六
二 滝川テニス協会	戸井 康堯	本町四丁目二	二四一八二六二
三 滝川相撲連盟	瀬戸口孝之	本町五丁目六一五	二三一二六五八
四 滝川サッカー協会	少覺三千宏	大町六丁目一	二四一七四七七
五 滝川カーリング協会	笹木 和幸	朝日町東三丁目一〇	二三一二九六四
六 滝川アーチェリー協会	飯田 学而	緑町七丁目八	二三一二九六四
七 滝川ボーリング協会	笹木 和幸	朝日町東三丁目一〇	二三一二九六四
八			

平成元年七月一日現在

#### ・歴代会長

初代 神部 俊郎 (昭五二・一二) 五六・一五)

二代 少覺 納 (昭五六・一六) 六二・六)

三代 犬飼 克己 (昭六二・一六) 六二・六)

スポーツ賞 滝川市体育協会は、昭和三十九年からスポーツ振興に功勞のあった人や、全道大会で優秀な記録、あるいは全国大会へ道代表として出場した人に賞をおくり表彰している。

第17回(昭和五五年度) 犬飼克己(体育協会)、野田光雄(弓道)、鈴木六郎(剣道)、豊田忠(剣道)、一柳万里夫(野球)、菅野正義(朝野球)、矢口吉昭(朝野球)、岡幸男(バレーボール)、前田静枝(バドミントン)、鈴木福信(弓道)、吉田邦男(柔道)、薦田一重(柔道)、柿崎淳子(軟式庭球)、佐野洋子(軟式庭球)、井向千登里(江陵中、卓球)、清水峰子(江陵中、卓球)、江陵中女子排球部、江陵中男子羽根球部、倉島克佳(開西中、陸上競技)、川田敏彦(開西中、陸上競技)、今野由香利(開西中・陸上競技)、江部乙中男子排球部、佐藤浩一(西高、柔道)、河村範子(西高、陸上競技)、和田美津子(西高、バドミントン)、杉浦洋志(西高、バドミントン)、小野寺利弘(西高、バドミントン)

第18回(昭和五六年度) 大草一二三(弓道)、井上浩(剣道)、山本岩夫(陸上競技)、森憲明(軟式野球)、田中寿藏(柔道)、矢島敏克(ソフトボール)、松川潔(朝野球)、佐藤清治(朝野球)、近藤博(バドミントン)、宮崎義明(弓道)、江陵中男子羽根球部、江陵中女子排球部、江部乙中男子排球部、西高女子陸上部四百米リレーチーム、滝高男子羽根球部、滝工高男子羽根球部、佐藤智雄(江陵中、バドミントン)、中居靖人(江陵中、バドミントン)、倉島克佳(開西中、陸上競技)、川崎久美子(西高、陸上競技)

第19回(昭和五七年度) 村上昭光(軟式野球)、池上紘一(卓球)、平野敏藏(バスケットボール)、居林勲(朝野球)、伊勢幸久(ソフトボール)、田中稔也(バレーボール)、小原勇(軟式庭球)、佐々木金治(柔道)、福田良輝(剣道)、宮川八作(陸上競技)、柳義文(水泳)、平岡英三(スキー)、滝川ママさんAチーム(バドミントン)、吉田直哉(東小、水泳)、佐藤留美子(江陵中、卓球)、田中栄二(江陵中、バドミントン)、樺坂倫代(江陵中、バドミントン)、岩切美知代(江陵中、バドミントン)、伊藤真弓(江陵中、バドミントン)、倉島克佳(開西中、陸上競技)、佐藤美智也(西高、柔道)、明苑中女子軟式庭球部

第20回(昭和五八年度) 水林清治(柔道)、鈴木清(朝野球)、古賀博(軟式野球)、清水郁雄(陸上競技)、田中従道(軟式庭球)、堀之内利徳(剣道)、中谷幸司(水泳)、鈴木静(卓球)、橋本明夫(スキー)、滝川青年団協議会(バドミ

ントン)、倉島克佳(西高、陸上競技)、江陵中男子羽根球部、木村博文(江陵中、柔道)、森万人(江陵中、バドミントン)、関矢健之(江陵中、バドミントン)、林秀行(江陵中、バドミントン)、谷口久永(江陵中、バドミントン)、松川隆子(江陵中、卓球)、関弓緒(江陵中、バドミントン)、明苑中男子羽根球部、伊坂隆洋(明苑中、軟式庭球)、浅田由敬(明苑中、軟式庭球)

第21回(昭和五九年度) 岩本義男(軟式庭球)、浜田和夫(卓球)、宮崎藤雄(柔道)、沢田緑(陸上競技)、但田知信(朝野球)、宇都宮房喜(銃剣道)、伊藤里志(バドミントン)、山田健治(バドミントン)、小塚朱美(バドミントン)、梶田令子(バドミントン)、大谷久美子(バドミントン)、横倉美直子(バドミントン)、瀬戸昇一(江部乙中、陸上競技)、森恵美子(西高、陸上競技)、神原英美(西高、陸上競技)、中村圭二(江部乙中、軟式庭球)、梨木佳紀(江部乙中、軟式庭球)、江陵中男子軟式庭球部、江陵中女子卓球部、江陵中男子羽根球部、吉田圭一(江陵中、バドミントン)、山崎馨(江陵中、バドミントン)、林泰子(江陵中、バドミントン)、河野優子(江陵中、バドミントン)、小野寺康之(江陵中、バドミントン)、駒村八一(江陵中、バドミントン)、イーストウルフスポーツ少年団(東小、少年野球)

第22回(昭和六〇年度) 故小高重宏(バドミントン)、故西尾幸一(体育協会)、相沢喜一郎(バスケットボール)、佐藤竹治(柔道)、佐藤卓(ボクシング)、藤井政治(陸上競技)、米田裕紀(軟式野球)、安住稔(卓球)、小野寿美男(朝野球)、伊藤千恵(卓球)、滝川クラブチーム(ソフトボール)、市役所ボバイズチーム(カーリング)、川村秀和(滝工高、スキー)、大野誠(滝工高、ボクシング)、斎藤幸博(滝工高、カヌー)、瀬戸昇一(江部乙中、陸上競技)、滝西高ソフトボール部、明苑中サッカー部、江陵中男子羽根球部、村井秀樹(江陵中、バドミントン)、藤本謙治(江陵中、バドミントン)、桜井敏大(江陵中、バドミントン)、秋山清(江陵中、バドミントン)

第23回(昭和六一年度) 田中洋(軟式野球)、故神部辰郎(スキー)、渡辺高明(軟式庭球)、早川茂(柔道)、峯村憲一(ボクシング)、佐々木義昭(陸上競技)、阿部亨治(スキー)、岡山英吉(弓道)、斎藤征行(朝野球)、梅沢秀明(カヌー、クラブ)、市役所ボバイズチーム(カーリング)、江部乙商工会(カーリング)、滝川青年団協議会(バドミントン)、滝川ママさんシャトルズ(バドミントン)、佐々木伸一(バドミントン)、山田健治(バドミントン)、山野明美(西高、軟式庭

球、関口まゆみ(西高、軟式庭球)、滝工高羽根球部、吉田圭一(滝高、バドミントン)、江陵中男子羽根球部、末村利彦(江陵中、バドミントン)、佐藤嘉伸(江陵中、バドミントン)、伊藤華代末(江陵中、卓球)、山田太(江陵中、スキー)

第24回(昭和六二年度) 菅原清一(軟式野球)、初山清二(バスケットボール)、森川岩夫(柔道)、柿崎敦彦(陸上競技)、阿部哲造(陸上競技)、谷西攻(朝野球)、佐藤卓朗(水泳)、今野源吾(相撲)、富樫誠一(バドミントン)、市役所バイズチーム(カーリング)、佐々木伸一(バドミントン)、加藤茂(バドミントン)、前田静枝(バドミントン)、滝工高男子羽根球部、木村宏之(滝工高、バドミントン)、桜井敬大(滝工高、バドミントン)、秋山清(滝工高、バドミントン)、成田優(滝工高、陸上競技)、佐藤保弘(滝工高、ボクシング)、齋藤幸博(滝工高、カヌー)、谷津臣則(西高、カヌー)、江陵中男子羽根球部、芳村晋悟(江陵中、バドミントン)、田村隆紀(江陵中、バドミントン)、小川和宏(江陵中、バドミントン)、嶋村隆(江陵中、バドミントン)、松本章(江部乙中、軟式庭球)、松本直人(江部乙中、軟式庭球)

第25回(昭和六三年度) 野沢芳郎(軟式庭球)、白水範哲(バドミントン)、佐藤寿幸(剣道)、高野清志(柔道)、田中正美(ボクシング)、宮永美津子(スキー)、田村恭邦(朝野球)、平政一(水泳)、瀬戸口孝之(相撲)、山田健治(バドミントン)、佐々木伸一(バドミントン)、加藤茂(バドミントン)、前田静枝(バドミントン)、吉森智鶴子(バドミントン)、滝川ママさんシャトルズ(バドミントン)、クロバークラブ(バスケットボール)、原田力雄(銃剣道)、小峰英子(カヌー)、斎藤幸博(カヌー)、滝川ホバイズ(カーリング)、火の鳥(カーリング)、松浦栄治(ボウリング)、滝川Aチーム(ボウリング)、滝工高羽根球部、西高野球部、桜井敬大(滝工高、バドミントン)、秋山清(滝工高、バドミントン)、森田秀幸(滝工高、ボクシング)、釣部正人(滝工高、ボクシング)、上田正人(滝工高、ボクシング)、加藤雄一(滝工高、ボクシング)、高橋幸彦(滝工高、ボクシング)、瀬戸昇一(西高、陸上競技)、ソフトボールクラブ滝川第二ビクトリーズ

第26回(平成元年度) 峯村憲一(国体)、川田一友(体育協会、柔道)、安原幸雄(体育協会)、江川正(軟式野球)、渡辺清一(軟式庭球)、阿部幹雄(バレーボール)、若松重義(バドミントン)、茂田敏夫(剣道)、宮下邦夫(ボクシング)、山本達美(スキー)、長田勇(弓道)、門清治(朝野球)、酒井英企(相撲)、神山周二(バドミントン)、野田隆徳(スキー)、山崎修(スキー)、日野昌晃(江陵中、バ

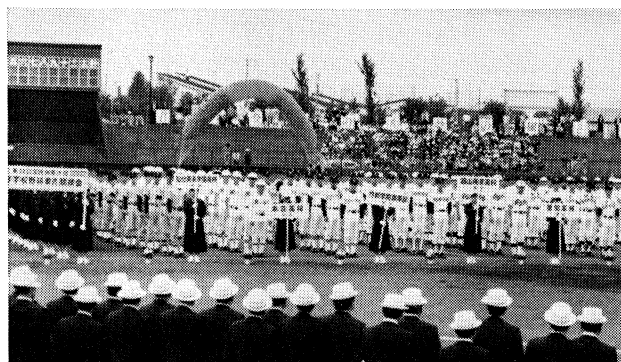
ドミントン)、小倉隆司(江陵中、バドミントン)、玉置佳代(西高、ボウリング)、前原晶(西高、水泳)、吉岡留美子(西高、水泳)、佐藤禎晃(滝工高、カヌー)、田村隆紀(滝工高、バドミントン)、小川和宏(滝工高、バドミントン)、吉野忠司(滝工高、ボクシング)、高橋幸彦(滝工高、ボクシング)、長名瑠美(滝高、なぎなた)、青木江梨(滝高、なぎなた)

第27回(平成二年度) 種田良一(ソフトボール)、東藤順治(体育協会)、小林昭弘(軟式庭球)、岡戸宏和(バレーボール)、藤田和久(陸上競技)、渡辺広幸(スキー)、田中勝雄(弓道)、西岡重寿(弓道)、三宅正治(ソフトボール)、得野諭(朝野球)、居林康弘(水泳)、野沢豊光(水泳)、小菅隆(水泳)

※第1回~第16回までは市史第九編第一章第九節に詳述されており、続巻では、文化・体育関係表彰を第十三編に移節した。

「はまなす国体」(第四四回国民体育大会)

第四四回国民体育大会高等学校野球(軟式)競技会



華やかに開会式(滝川市営球場)

第四四回国民体育大会は郷土北海道全域を舞台に、冬季・夏季・秋季大会の完全国体として、「はまなす国体」をテーマとし、

君よ今、北の大地の風となれ

をスローガンに、全道二五市一七町一村の競技会場において熱戦が展開された。

滝川市は高等学校野球(軟式)競技を担当し、全市民の総力結集の中で郷土滝川の名

にはじめぬよう、そして滝川市の更なる充実進展を期して万全の競技体制と心をこめた歓迎準備につとめてきた。天候の面において些か心残りがあったが、来市された全国の人々の心に滝川市の豊かな思い出をもってそれぞれの郷里に帰られたことを数多くの礼状の中に見られ、実りの多い大会になり得たことを喜びとしたい。

○「はまなす国体」の規模(総参加者数 二九、八九五人)

冬季大会 (参加者数 四、二九三人)

平成元年一月二十八日～三十一日(四日間) スケート、アイスホッケー

平成元年二月十九日～二十二日(四日間) スキー、バイアスロン

夏季大会(参加者数 五、二四三人)

平成元年九月三日～六日(四日間)

水泳・漕艇・ヨット・カヌー・ボウリング

秋季大会(参加者数 二〇、三五九人)

平成元年九月十七日～二十二日(六日間)

陸上競技他三二種目

○北海道選手団の成績

天皇杯(男女総合成績)

第一位 北海道 三九二四、一六六

第二位 東京都 二四〇三、〇〇点

第三位 神奈川県 二〇五一、五〇点

皇后杯(女子総合成績)

第一位 北海道 一四九九、六六六

第二位 東京都 一〇三〇、〇〇点

第三位 大阪府 八二二、〇〇点

○第四四回国体開催の経過概要

昭四九・一 北海道体育協会長、道知事、道教育委員会連名による国体早期開催の要望書を日本体育協会及び文部大臣に提出

昭五三・一 第四二回国体開催について要望書提出(右と同じ)

昭五五・一 日体協理事会において第四四回国体開催を北海道に決定

昭五五・六 滝川市体育協会会長より、市長、議長、教育長に対し、六四年国体競技種目招致に関する陳情書提出される。市議会において第四四回国体の競技種目誘致に関する要望決議

昭五六・七 国体招致について知事及び道国体準備室長に要望書を送付

昭五五・八 国体開催希望種目について市理事者と協議

第一希望 軟式庭球 第二希望 羽根球 第三希望 卓球とし、競技希望調書を空知支庁に提出

昭五五・一〇 第二、第三希望の種目については希望市町が多いため軟庭一本にて招致運動を進めていくことに意見一致

昭五六・一 道国体準備室参事より「ハンドボール」の意向打診。当初の希望種目で要請。更に「ボクシング」の受け入れについて電話連絡あるも、現状から軟庭で意見統一。

昭五六・三 道国体準備室参事より他市とのかわりて軟庭は難しく高等学校野球(軟式)を考えているとの意向

国体招致に関する会議において市体育協会会長より、現在までの経過状況等について報告、軟式庭球については不可能であると判断、市軟式庭球連盟も同意見であることを説明、今後他種目招致に全力をあげて取り組みたい旨表明、全員了承す。社会体育課長出札、準備室参事と面談「高等学校野球(軟式の部)」の受け入れについて確約

第四四回国体準備委員会・常任委員会において高等学校野球(軟式)を滝川市に決定する。

昭六一・七 滝川市国民体育大会準備室設置

昭六二・七 滝川市国民体育大会事務局設置

昭六二・九 第四四回国体滝川実行委員会設立

昭六三・三 昭六三年度リハール大会開催事業実施計画書提出

昭六三・七 第四四回国体大会リハール大会(第三八回全国高等学校軟式野球選手権大会北海道大会)開・閉会式

平元・五 はまなす国体滝川市民運動推進協議会設立

平元・八 会場周辺整備(コスモス植栽など)

はまなす国体三〇日前記念パレード

平元・九 はまなす国体一週間前クリーンデー開催

会場周辺大清掃実施

平元・九 第四四回国民体育大会空知支庁管内大会旗・炬火リレー〳〵空知開拓の火〳〵採火式(夕張市)

平元・九〳〵大会旗・炬火リレー〳〵 国体ムードの高揚と大会の成功を図るため、九月十一日に「空知開拓の火」を赤平市から引き継ぎ、降雨に見まわれる中、市内二〇区間、走者隊一六区間(一八・六キロ)、輸送隊四区間(二七・五キロ)を実施し、沿道ではたくさんの方々の声援を受け、無事深川市へ引き継いだ。

このリレー走者は、小・中・高校生と一般の人により、一〇人編成で一六〇名が参加した。

また、市役所にての昼食休憩時には、龍栄大鼓(六名)西高等学校吹奏楽部(六〇名)による力強い演奏で、国体への気運を盛り上げた。

平元・九第四四回国民体育大会空知支庁管内大会旗・炬火リレー〳〵空知開拓の火〳〵採火式が、九月十五日岩見沢市で行われた。

平元・九・一七 第四四回国民体育大会総合開会式(札幌市)

#### 第四四回国民体育大会滝川市実行委員

#### 会

〳〵基本方針〳〵 第四四回国民体育大会(はまなす国体)は五七〇万道民の総力を

を結集し、美しい自然を生かし創意工夫をこらした国体開催は、北海道の開



炬火リレー隊歓迎(市役所前)



力強い滝川の若人

催方針に基づき、秋季大会軟式野球(高等学校)の競技会場として滝川市民総参加のもとに一致協力し、「君よ今、北の大地の風となれ」のスローガンのもとに意義ある大会を開催し「はまなす国体」の成功を期し、「健康で、心のかよいあう、住みよい滝川市」の一層の充実進展を図る。

#### 〳〵実施目録〳〵

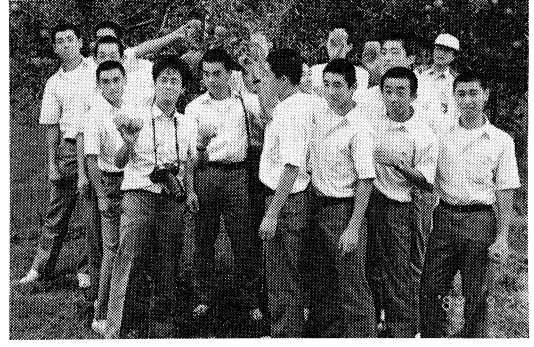
- 1 全国から集う参加者を暖かく迎え、友情を深め、思いやりのある、充実した大会とする。
- 2 大会を契機に豊かなスポーツ活動を通じ、市民の健康増進、体力向上に向けて意識の改革を図る。
- 3 各関係機関、団体と連携協力のもと万全な受け入れ体制の確立を図る。

〳〵実施本部〳〵 本市開催競技及び、大会旗・炬火リレーの実施に万全を期すため、国民体育大会滝川市実施本部を設置。組織は、本部長に助役、副本部長に収入役、教育長を充て、八部一二班を設け競技会運営にあたった。

・市民運動 一人ひとりの自発的行動が家庭から、職場から、そして地域のすみずみから石狩川の流れのように、大きな広がりとな



熱戦風景



勝敗を忘れての一刻(江部乙リンゴ園)



期待に胸躍らせる市民

なす国体を市民的な盛り上がりの中で成功へと導くとともに大会参加者が、広大な大地のもとに参集された時に、心より歓迎し、併せて国体を一大契機として市民皆スポーツの推進を図ることを目的に、

- 1 健康でたくましい体をつくろう
  - 2 あたたかく豊かな心をつくろう
  - 3 美しく住みよい郷土をつくろう
- を目標の三本柱として、健康都市宣言のまちとして二一世紀に向

市宣言のまちとして二一世紀に向

けてのまちづくりにつながる市民運動を展開した。

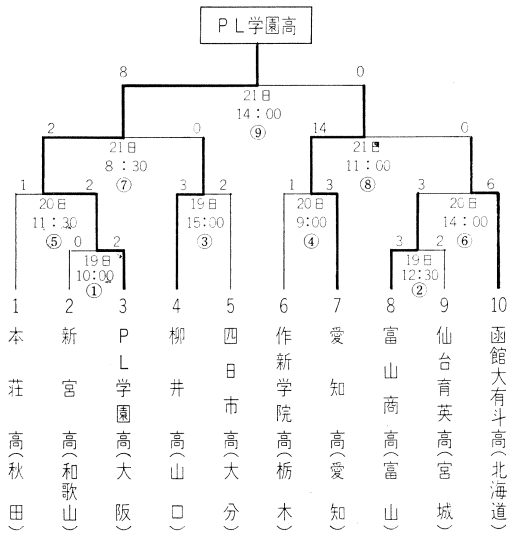
《競技・式典》

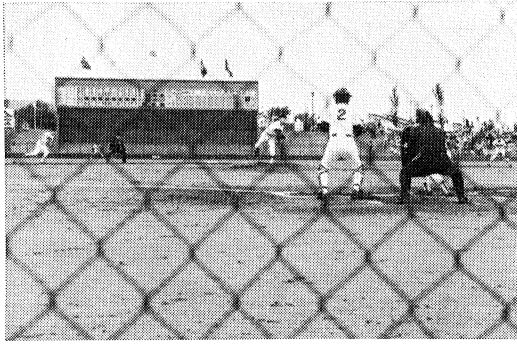
(1) 競技 競技運営は、日本高等学校野球連盟の指導のもと北海道高野連及び同北空知支部との連携を密にし、審判講習会を本番さながらに二回実施した。

会場施設部と十分な打ち合わせを行い、雨天による一日順延のアクシデントの中、スポンジで水を吸い取り、砂を入れ、また時間の関係上ナイターゲームも行なうなど、雨のおかげで印象に残る場面を数々残し全ての競技日程を消化し、すばらしい運営ができた。

(2) 式典 開始式及び、表彰式の式典は、大会の成否に大きな影響を及ぼすことから、入念な打合せ、リハーサルを重ねた結果、極め

○競技組合せ及び結果





熱戦につぐ熱戦



戦い終り、互いに健闘を讃える

て円滑に、しかも参加者には深い感銘を与えることができた。  
あいにくの悪天候にもかかわらず、多数の市民が見守る中で、開始式の前に集団演技（江部乙屯田太鼓二〇名、第三小学校六四名、第二小学校三四二名の児童生徒）により、式典ムードを一気に盛り上げ、式典音楽（明苑中学校一五名、江陵中学校八〇名、開西中学校一五〇名、江部乙中学校二五名）の演奏のかなでる中、球場内が厳粛のうち全てが取り行われた。

△大会を顧みて▽

滝川市は、公開競技種目の高等学校野球（軟式）競技の会場地として市民総参加のもとに大会成功に向かって取り組んだ。準備段階における老人クラブの人々による会場周辺清掃やコスモスの植栽、大会一週間前の会場周辺をはじめとする全市あげてのクリーンデー作



表彰式

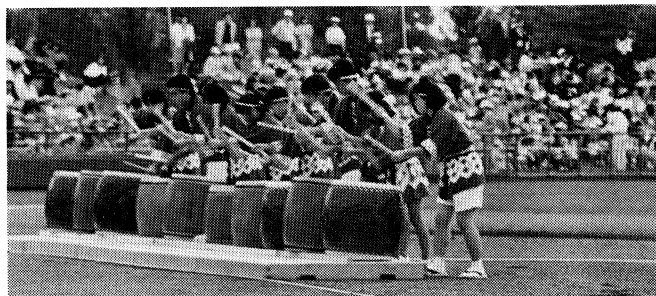
戦による美化清掃運動の実施、また、大会期間中における婦人団体のボランティア活動による湯茶の接待、北海道の持つたくさんの味の提供や、茶道連合会の方々による野点席の設置と開放提供など、大会参加者はもちろん多くの市民からも喜ばれた。

本大会期間は天候に恵まれず、正に「雨ニモ負ケズ」の大会となった。大会日程の順延、降雨による試合の一時中断、ナイターへのずれこみ等、最善の競技場提供に打ち込んできた大会運営関係者には大変なご苦労をかけたものとなった。しかし参加選手諸君の真摯な競技振りはこれら労苦を補なって余りあるものであったことは喜ばしい。

吉岡市長は国体報告書の序文において、「表彰式後には、責任を果たした安堵の念からか、どこからともなく「よくやった」「よく



小学生による集団演技



江部乙屯田太鼓のみなさん

やった」と抱き合いながら感涙している光景は感動を覚える」(抜すい)と述べている。市民一人ひとりが多くの感動、感激を体験し、持てる力をすべて出し切ったという満足感が漂う中で終了でき、二一世紀に向かっての滝川市の大きなうねりを確信できたことは真に有益であった。



力いっぱいの戦いがつづく

第四節は下巻に登載

### 第五節 社会活動

滝川市郷土研究会 昭和三十一年から同好の士による郷土史の発掘、資料の収集整理等をすすめていたが、昭和四十年秋、組織的な活動を展開するため、創立総会を開き、組織編成、役員選任、事業推進等について決定し発足した。

昭和四十一年、機関誌「そうらっぶち」創刊号を発刊、以来、会員の地道な研究調査等により埋もれていた貴重な裏話などが紹介され、開基以来の滝川の姿が徐々に表われてくるようになり、貴重な



市民のボランティアによる美化活動

活動を続けている。最近の主な事業としては、探査会（上川道路、石狩川の源流、芦別川・幾春別川等）の実施、各地郷土館、博物館、記念館めぐり等、毎年実施している。

「そうらっぷち」第三十二号は、開基一〇〇年を記念するものとして内容編集に工夫し発刊すべく準備中である。

・会員数 六十名

・歴代会長

初代 三浦 光正（昭四〇・一・三〇） 二代 中村 正直（昭六二・四〇）

三代 嘉見 光義（昭六三・六）

### 文化財保護審議会委員

昭和二十五年法律第二一四号による文化財保護法が公布されたが、滝川市としても市として重要なもの保全及び活用をはかり、市民文化の向上に資するため昭和四十六年四月一日滝川市文化財保護条例を公布した。

これにより、同日付で文化財調査委員五名を任命し、翌四十七年四月一日文化財保護審議会委員として委嘱替えをして現在に至っている。

審議会委員定数は五名で、その任期は二年となっている。

昭和四十六年四月一日調査委員任命

金子 協平 白水 努 国兼 昇 一木善二 金坂吉晃

昭和四十七年以降 保護審議会委員委嘱

氏名	就任	退任
白水 務	昭和四七・四・一	五五・五・一六
国兼 昇	同	同
金子 協平	同	同
一木 善二	同	同

### 第三章 社会・文化活動

中川 泰一	同	右	平元・九・三〇
森本 幹夫			五一・四・一五
堀田 武司			五五・七・一
高畑 イク	同	右	六三・六・二九
宮内 丈之	同	右	〃
嘉見 光義			六二・三・二五
吉沢 省二			平元・一〇・一

（現任期 平三・九・三〇まで）

### 滝川ロータリークラブ（明神町二丁目二一六 ホテルスエヒロ内）

ロータリーとは他人に対する思いやりと、他人のためにつくすことであり、ロータリアンは地域社会を良くする努力を通して、他人のために奉仕し、ビジネスと職業生活における道徳的水準を高め、各国の人々との間に知識と理解のかけ橋を築いて世界平和の大義を推進することを目的としている。

この崇高な理想に共鳴し、自らを高め、社会のために力を尽そうとする滝川在住の人々が集まり、クラブを結成したのが昭和三十三年八月、国際ロータリークラブ加盟を承認されたのは同年十一月であった。以来、理想の奉仕精神を貫き、社会奉仕を通じて地域の発展に寄与する諸事業は年毎に充実され、クラブの意義が理解されたことから会員は増加し、平成二年には一一〇名に達した。

同クラブの活動の中にいくつかの基金寄付がある。留学生を派遣して国際理解と友好関係を増進させようとする「ロータリー財団」への寄付累計は一〇万八、〇〇〇ドル（約一、三五〇万円）を超え、また、日本の大学に在学する外国人学生へ奨学金をおくる「財団法人ロータリー米山記念奨学会」への寄付は、すでに三二二万四、〇〇〇

○円に達している。更に、世界保健機構(WHO)やユニセフ等の国際的保健機関や国と提携し、特に発展途上国におけるポリオ(小児マヒ)の免疫接種をして世界の子どもたちからポリオを撲滅する運動の「ポリオ・プラス」への寄付も三八〇万円を超える程の実績となっている。これらの寄付は特定の時期に実施されるのではなく、ロータリアンの意識化による逐年の行動が積み上がったものである。

地域奉仕についてこの十年を述べると、交通安全塔の設置寄贈、西公園の桜の園造成事業(長期計画)、美術自然史館の門柱贈呈、緑寿園への救急車寄贈、ベルロードへの「温度表示付液晶デジタル時計塔」の寄贈、スキーパトロール隊へのスノーモービルの贈呈等枚挙にいとまのないほどの多様な奉仕活動を毎年実施し地域振興に寄与している。

滝川ロータリークラブのこれらの社会奉仕活動は各方面から高く評価され、平成元年、地区ガバナーから、ポリオ・プラス協力優秀賞、ロータリー財団貢献優秀賞、会員増強特別優秀賞、の特別表彰をうけ、更に、消防車をフィリピンに贈呈したことから、地区世界社会奉仕協賛賞をフィリピンロータリークラブより贈られた。昭和六十三年十一月、地域奉仕活動が地域の民生安定と社会福祉に多大の貢献がなされたとのことで、滝川市政功労団体に選ばれ表彰の榮譽に浴した。

平成元年六月十八日、創立三十周年記念式典を盛大に挙行し一層の精進と努力を誓い合った。

歴代会長

- |     |       |     |       |     |       |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 二三代 | 坪谷 六郎 | 二四代 | 近藤良四郎 | 二五代 | 鈴木 英市 |
| 二六代 | 吉田 守人 | 二七代 | 岡本 皓  | 二八代 | 戸井 康堯 |
| 二九代 | 種田 良一 | 三〇代 | 熊本 博一 | 三一代 | 中山 弘三 |
| 三二代 | 花摘 誠吉 | 三三代 | 野瀬 武二 |     |       |

滝川ライオンズクラブ(大町一丁目八一 産経会館内)

滝川ライオンズクラブは、昭和三十五年九月札幌ライオンズクラブのスポンサーにより道内八番目のクラブとして結成され、以来、中空知の中核として、近隣市町村に八クラブのエクステンションをし、社会奉仕の輪を広げてきた。

平成二年現在、会員八二名をもって活動しているが、継続事業としては、春秋二回の交通安全旬間における広報活動や立哨活動、各種募金活動への積極的参加と寄付、青少年健全育成の一環としての小・中学校対象絵画コンクールと絵画展の開催、並びに滝川レオクラブの育成援助、公園をはじめとする公共施設の清掃及び植樹など幅広い奉仕事業を活発に行ってきた。

更に記念事業として贈呈したものは、創立二十周年記念として滝川駅前歓迎塔の建立及び中央検問所の設置、創立二十五周年を記念して滝川市美術自然史館前庭イチョウの木植樹、また、地区年次大会記念として同じく美術自然史館前庭にライオンの滝設置、平成二年滝川市開基一〇〇年記念に合わせ、創立三十周年記念のメモリアル歓迎塔の建立(栄町四丁目)等がある。

平成二年九月、創立三十周年記念式典を道内外から六百余名の参列を得て盛大に挙行した。

歴代会長

- 昭55松尾政治 昭56香西 弘 昭57関矢孝一 昭58滝谷一夫

昭59 榊田広行 昭60 川嶋慎之輔 昭61 池田 稔 昭62 室 博雅  
昭63 四柳正志 平元山下 勇 平2 岡本信三  
滝川中央ライオンズクラブ(大町二丁目八一― 産業会館内)

滝川ライオンズクラブの会員の増加が甚しくなり、クラブ運営や活動における一体化が困難になってきたことから、別組織の結成が必要ということで、昭和五十六年十二月十二日滝川中央ライオンズクラブが結成され、昭和五十七年六月六日国際本部の認証を得、活動を開始した。

主な活動としては、献眼(アイ・バンク)登録活動、青少年健全育成事業を奉仕の柱とし、西公園内の植樹、二十四時間ソフトボール大会の開催とその益金の障害児学級設置校への寄贈、身障者対象のボリング大会の開催構想などユニークな奉仕活動を展開している。

#### 歴代会長

初代(昭57) 齊藤 春雄 二代(昭58) 長田 勇  
三代(昭59) 佐々木良一 四代(昭60) 高橋倉太郎  
五代(昭61) 幡 六郎 六代(昭62) 新道 巖  
七代(昭63) 杉山 啓 八代(平元) 後藤 良郎  
九代(平2) 太刀川静陽

#### 滝川レオクラブ(大町二丁目八一―七 産経会館内)

温かい思いやりのある心と、強い責任感とを備え、地域社会の発展に献身的に奉仕できる青少年の育成をめざして、滝川ライオンズクラブがスポンサーとなって昭和四十九年二月に結成されたこのレオクラブは、同年三月十六日国際本部の認証を得て、道内五番目のレオクラブとしてスタートした。

会員は現在二〇名で毎月第一土曜日に例会を行いながら、各種の

募金運動参加や公園清掃奉仕、老人ホーム慰問等の奉仕のほか、レクリエーション行事を通して会員の親睦を深め活動の円滑化を図ってきた。

小・中・高に在学中の会員が多いことから、受験期にある時や、学校のクラブ活動等との関連において組織的な活動が十分にできないことなどもあって悩みはあるものの、滝川ライオンズクラブ、滝川中央ライオンズクラブの強いバックアップをうけ、初期の目標に向かって邁進している。

#### 歴代会長

昭49 高畑利茂 昭50 谷口和隆 昭51・52 佐々木愛子 昭53 吉田知永 昭54 近藤 藤早苗 昭55 谷口いずみ 昭56・57・58 遠田有里 昭59 高橋朋子 昭60 山崎 裕子 昭61 佐伯重己衣 昭62・63 平元桜井敬也 平2 大川弘展

#### 江部乙ライオンズクラブ 昭和六十一年九月、クラブ認証二十周年を迎え、各界の来賓、各地区ライオンズクラブの代表の方々多数列席の中盛大に記念式典を行い、二〇年間における江部乙ライオンズクラブの輝やかしい奉仕による社会貢献について自他ともに確かめ合い、一層の精進努力を誓い合った。

江部乙ライオンズクラブは、地域の人口規模が小さいことから、会員の数は他のライオンズクラブに比較すると極めて少ないこととクラブとしての活動は派手さは見当らない。しかし、ライオンズクラブの原点を逸脱することなく、地味ではあるが絶ゆることのない奉仕活動を続けているところに特徴がある。その奉仕事業では、老人クラブへの週刊誌の寄贈がある。これは金額的には少ないけれども毎年しかも毎月欠かさず行い老人クラブに憩う人々に安らぎと

るおいを与えてくれる奉仕として感謝されているし、老人ホーム（緑寿園）の行事に協賛し、会員も直接参加して慰問奉仕につとめ、また、地域の公園清掃や築山の手入れなどを定期的に会員の行動による直接奉仕が続けられているのは、極めて尊い活動であると云える。

会員は三〇名ほどであるが、クラブの奉仕活動をより高めるためには組織強化が必要であり、参入会員の増加が期待されている。

歴代会長 昭54井上範義 昭55・56・57山口光義 昭58渋谷弘 昭59  
坂口末一 昭60嶋田定雄 昭61工藤勝 昭62虎谷正市  
昭63乾建一 平元野地和英 平2和田周吉

社団法人滝川青年会議所（栄町二丁目一一一七）

滝川青年会議所は、昭和三十五年二月、日本青年会議所に参加、全国一八一番目の会議所としてスタート以来、一貫して「明るく豊かな社会の創造」という青年会議所運動の目標達成に徹し、自己修練と社会奉仕を二本の柱として活動を進めている。

代表的な事業としては、平成二年名護市と滝川市との友好親善都市盟約締結のきっかけとなった昭和四十九年より実施してきた両市児童交歓訪問事業、また、滝川における産業の未来をさぐる鍵ともいえるバイオテクノロジーを広く市民に紹介したバイオフェアの開催、健康都市滝川を象徴するスポーツイベントとしてのコスモスマラソンの開催など他の諸団体との協力体制により実施している。

昭和五十九年、JC会員三、〇〇〇人余りの参加による、JC全道会員大会の滝川開催の運営、平成元年五月創立三十周年記念式典と併せて行われた名護青年会議所との友好JC締結式の挙行等、情

熱と行動、そして協調を基本に各種大会を成功させてきた。

・歴代理事長

二一代（昭55）中田 翼	二二代（昭56）藤井 哲也
二三代（昭57）中島 健	二四代（昭58）塩尻 一幸
二五代（昭59）松尾 政徳	二六代（昭60）引地 健夫
二七代（昭61）石黒 安雅	二八代（昭62）中野 哲男
二九代（昭63）細田 光人	三〇代（平元）笹木 国春
三一代（平2）川口 義弘	

滝川市消費者協会

昭和四十一年に結成されて以来、各種商品の

質や量の調査、欠陥商品や有害商品の研究排除、適正価格の要望等幅の広い活動を続け、賢い消費者を目指すための運動を展開してきた。これらの活動は、会員の行動によって収集された資料等を全道的組織による科学分析が行われ良質の商品を産み出す力となってきた。

昭和六十一年十一月滝川市消費者協会結成二十周年を迎え、記念式典を盛大に行ったが、時あたかも大型間接税問題が巷間において論議されつつあり、組織を挙げて撤回に向けての運動展開となった。

消費税を焦点とした参議員議員選挙は全国を二分する争いとなったが、消費者の力があらためて見直されることとなり、日ごろの市民生活に根づいた消費生活展や、業界団体とのきめ細かな懇談会等を実施する中で、「明るいくらし」を求める灯を失うことなく、消費者協会の在り方と意義を市民に浸透させ、組織の一層の強化拡大が期待されている。

歴代会長

初代 林 ミツ（昭41） 二代 神部富美子（昭42・43・44）  
 三代 真田 和子（昭45・46・47・48・49・50・51）  
 四代 前田 トシ（昭52・53） 五代 西村ケイ子（昭54・55・56・57）  
 六代 中島キミ子（昭58・59・60・61・62・63・平元・2現在）

## 第六節 憩いの場

日本経済の発展は、物質的な豊かさを拡大してきたが、滝川市では大自然の恵みを感じ得ることによって、「心ふれあう、生きがいのあるまち」づくりを願い地域をあげて精力的に取り組んできた。都市空間としての緑地や公園の確保はまちづくりの上で最も重要な課題であるところから、滝川市は年次計画に基づき遊びと自然に親しめる公園造成と整備を実施してきた。

昭和六十三年度における公園数は、総合公園一、運動公園一、地区公園四、近隣公園二、児童公園四八、風致公園二、緑地公園三、合計六一公園に達し、市民一人当たり、五七・三二平方メートルの広さになり、道内有数の整備状況である。市民の利用も増えており、一層の充実が期待される。

**滝の川運動公園** 早くから公園として市民に親しまれ、静と涼を求める人々に豊かな緑を与えてきた公園である。スポーツ施設の増設とともにスポーツに汗する人々も増え、木陰に憩う健康な姿は未来の滝川を象徴する。春先、水ばしろうのかれんな花と桜の花が調和して訪れる人々の心を休ませてくれる。

（注 第九編第二章第三節参照）



滝川どうぶつらんど

**北電公園** 夏も冬も子どもたちが元気に遊ぶ公園である。昭和六十二年五月この公園内に「どうぶつらんど」が設置され、子どもたちの喜びを倍加させた。サル、ウサギ、トナカイ、アライグマ、ハムスター、ポニー、ロバ等の小動物が飼育され、見て触れることのできる子どもたちの天国である。

開基百年記念塔が公園の丘の上に建設をすすめられているが、来春からのファミリーあがての楽しい公園が予測され滝川の新名所という期待は大きい。（注 第十三編第四章第一節参照）

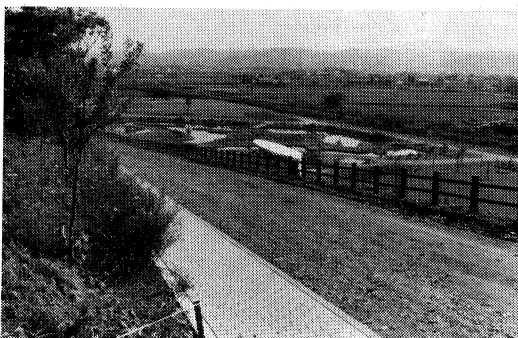
**空知川緑地** 昭和五十年から整備がすすめられ、各種スポーツ（野球、テニス、サッカーなど）競技場、交通公園、サイクリングロード、遊戯場、休養広場等、市民の利用度は高い。

昭和六十二年、黒柳朝がコスモス植栽を提唱したことがきっかけとなり、市内全域にわたりコスモスが植ええられるようになった。滝川市は空知川畔の中に二ヘクタールの広場を設けコスモスを植栽し、コスモス広場と名づけた。

昭和六十三年八月から、コスモス祭り、農業夏まつりのイベントが新たに行われるようになり、市内外の人々から喜ばれている。



コスモス広場



滝川東公園（海牛公園）

**海牛公園** 滝川東公園が正式な名称だが海牛、公園が通り名になっているように、滝と海牛の像が市民を喜ばせる。

交通安全祈願観音像の優しい姿に見おろされながら歩き、市民会館での華月館に住時を偲び、チョッチャンコレクションを見学できるのはうれしい体験である。

**石狩川河川敷** 石狩川の広大な河川敷は早くから野球場などが造られ利用されてきたが、市民ゴルフ場として一八ホールが整備され練習場が設置されたことによって市民の利用度が最も高い施設となった。また、グライダー滑空場も整えられ、スカイスポーツへの関心は高まり、地域振興の中心的役割を持つようになった。

平成二年航空公園造成の工事を開始、この河川敷を含む一帯を五つのゾーンに整備分けし、市民憩いの場として変ぼうさせるもので

ある。隣接する西公園に民間団体の協力を得て年次計画による植樹を行い、桜の園をめざす努力が続けられており、桜の名所として近在にその名を知られるときも近い（注 第九編第二章第三節参照）。

**滝川市民ゴルフ場** 石狩川都市環境整備事業のひとつとして、最近特に大衆化されてきたゴルフ場を選びスポーツになじみの少ない老人・婦人層をはじめとして全市民に娯楽を通してスポーツへの参加をすすめる、市民の健康管理と体育の向上に寄与しようとして昭和五十二年にオープンした。当初は九ホールでスタートしたが愛好者の要望をとり入れ、昭和五十八年五月、一八ホールに拡充すると共に、ゴルフハウスの新築、駐車場の整備等を実施し市民の憩いの場は充実したものとなった。更に、平成三年七月のオープンを目指して、九ホール、パー三六のコースを造成すべく作業に入っている。

施設概要

面積	六六四、六七一・一二平方メートル
規模	コース 一八ホール パー 七二
	アウト 二、六七〇メートル
	イン 二、八六八メートル
練習場	二〇〇メートル 四八打席
駐車場	一五二台収容
ハウス	鉄骨造一部鉄筋コンクリート二階建
面積	四六六・三〇平方メートル
営業時間及び料金	
営業時間	午前五時～日没まで（練習場は午後九時まで）
利用料金	
(1)練習用ボール	一〇〇円、二〇球

区分	金額	区分	金額	備考
早朝	一、五〇〇円	老人	平日	(老人) 満六十五歳以上 (早朝) 平日の午前九時 までに、スタートハウス へホールアウトした場合 に限る。
平日	二、七〇〇円		土曜日	
土曜日	三、六〇〇円	日・祝日	一、八五〇円	
日・祝日	四、〇〇〇円			

利用状況(コース入場者数)

年	公社	老	早	朝	平	日	土・日・祝	計
一六	〇	三五	五二	二	二八	五	八〇	一
一七	〇	五三	九四	五	六一	一五	一一	一
一八	〇	六一	一一	七	二三八	一九	一四〇	一
一九	〇	七三	四二	八	四六七	八	七六二	一
二〇	〇	一八	四五	八	一三三	八	七〇四	一
二一	〇	四一	〇九	一一	二三四	〇	七七九	一
二二	〇	五七	四〇	一三	三九九	一三	七九四	一
二三	〇	八二	〇四	一三	二三六	一四	二八七	一
二四	〇	八〇	八一	一三	二二七	一三	二四八	一
二五	〇	八二	九七	一四	八四二	一六	一七八	一
二六	〇	一九	八七	一九	五六四	一七	一六二	一
二七	〇	一四	七四	二三	〇六一	一七	九五七	一
二八(平元)	〇	一六	八四	二七	六二七	一九	八〇六	一

※営業年度は毎年六月一日から翌年五月三十一日まで  
※〇内の数字は昭和年を示す

公衆浴場

- 東湯 緑町六一五 三浦鶴夫
- 滝の湯 滝の川町西五―三 鶴川馨
- 花月湯 花月町二―一 柴田茂
- 開西湯 西町六一五―三五 齊藤広治
- 日の出湯 大町一―五―一三 岡本信雄
- 三河湯 朝日町西四―一 野々山環
- 緑湯 大町四―八―三 坂井繁一
- かずの湯 本町三一六―三二 高橋昭治
- 末広湯 西町三一―一 倫スエヒロ
- たぬき湯 滝の川町東二 山本昭義
- 〃 江部乙町西一五 〃
- 泉町共同浴場 泉町一―一四―四八 泉町共同浴場組合
- 〃 〃 〃 〃 〃 代表者 加藤 建蔵
- 特殊浴場
- 「家族風呂いしかり」 昭47 有明町四―三 経営者 毎原政夫
- 「松尾サウナ」 昭43 明神町三―五 経営者 松尾羊肉(株)
- ※「えべおつ温泉」 昭3 江部乙町西二十一 八
- 滝川浴場組合
- 歴代組合長 三代 岡本 信雄(昭四七・六 現) 在

第七節 滝川のイベント

滝川では滝川神社をはじめとする各神社の祭礼や盆踊りなどは、古くから市民の楽しみの場として行われてきたが、それらの内容は他地域とも大同小異で滝川市独特のものではなく伝統的な流れに沿ったものであった。しかし、時の流れと勢いは住んでいる街の人々だけのものという意味あから前進し、街おこし、村おこしによる街

づくりを目指した独自のイベントの必要性が生まれ、地域活性化の道を求め行動が具体化してきた。

殊に若い世代の感覚とエネルギーによって街のイメージを一新し、生き生きとした市民の表情から、期待からのささやかな発想や、ひとりのアイデアがみんなのものとなって積み上げられ、「コスモス祭り」、「滝川しづき祭」、「市民冬まつり」の形となり市民のものとして盛り上がりつつある。

『滝川しづき祭』（主催：たきかわ観光協会）

昭和五十五年八月、空知川河床において約五〇〇万年前のものと推定される海牛の化石が発見された。世界でも珍しいこの化石に「タキカワカイギユウ」と学名が付けられ、「タキカワ」の名は全国に知れ渡った。市ではかねてからの構想であった美術館建設と、滝川の自然史を物語る「タキカワカイギユウ」の化石保存を同時解決を図るため滝川市美術自然史館を建設、滝川の原始から現在に至る姿を意識化し次代への夢を育むこととした。

滝川市は開基のころから母なる川、空知川と石狩川の合流点において発展してきたまちである。

この空知・石狩の二大河川の恩恵は計り知れないものがあったことは歴史が証明しているところであるが、大雨の度ごとに氾濫し、勢いよく流れて合流するとき、すぎましい水しづぎとなって舞い上がる様はよく言い伝えられてきたところであった。また「タキカワカイギユウ」の棲んだ鮮新世の地層が、滝川が海であったことを証明しているところから、激しい風雨による高波が逆まく波しづぎの

荒ら荒らしさは容易に想像されるところであった。

この「水しづき」、「波しづき」から「滝川しづき祭」のイメージと名称が生まれたわけである。

まつりのメインとなっている巨大なあんどん山車は「タキカワカイギユウ」にちなみ、その昔、この地に生息していたであろう海獣たちをあんどん化したのが始まりで、このテーマを基に、川が氾濫することなく、滝川の発展躍進と家庭円満を願ったものである。

♪掛け声♪（くり返し）

「ソーラッチャ!!」（リーダー）、「ヨイヤヨイヤ!!」（踊り手他）

「ソーラッチャ!!」（リーダー）、「ヨイヤヨイヤ!!」（踊り手他）

※滝川（アイヌ語で、「ソーラップチ」という）の素敵な夜（良い夜）が語源で、「しづき祭の夜はいいぞ、寄って来い！ 寄って来い！」の意味が込められている。

♪しづき踊り♪

「ソーラッチャ!!」「ヨイヤヨイヤ!!」の掛け声に合わせて、四拍子で左右にとび跳ねる独特なおどりで、鯉の滝のぼりを連想させる勇壮闊達なしぐさが特色で、老若男女だれでもが踊れる単純素朴なリズムに楽しさがある。

・第一回しづき祭（昭和六十年八月二十二日・二十三日）

滝川神社の秋の例大祭に合わせて第一回目の祭りを行ったが、全くの手さぐり状態の中での開催だった。従って内容的には、あんどん山車一四基の参加はあったものの、おみこし、民謡・歌謡ショウ、音楽パレード、抽せん会等催事は極めて月並みなものであ



盛りあがる「しぶき祭」風景

た。しかし、約一〇万人の観衆に励まされたことに自信は生まれ、次年度の工夫に意欲を湧かしたものとなった。

・第二回しぶき祭（昭和六十一年八月二日・三日）

参加団体の意気も昂扬し、あんどん山車一五基も壮大なものが多くなり、二日間にわたる山車の勇壮な運行に熱気は一段と高まった。掛け声

「ソーラッチャ!!」「ヨーイヤヨイヤ!!」が初めて正式に採用され、各参加団体の工夫も加わり、黄色いタスキの配布着用など千人踊りも軌道にのり運営も円滑さを増してきた。開催日を毎年八月第一土曜・日曜の二日間とすることを決定した。

観衆約一二万人で町中にぎわった。

・第三回しぶき祭からは國學院大學のドリル演奏の協力参加が行われ、第四回からは、幼稚園・保育園の園児たちも参加、年々観衆も増加、約二〇万の人々にぎわいをみせるようになった。

平成二年八月四日・五日の第六回滝川しぶき祭は、滝川市開基一〇〇年を祝い、未来への発展を誓う祭りとして近年にない盛り上がりとなったものとなった。

殊に、國學院女子短期大学の開学が縁となって友好親善都市の盟



勇壮な山車の練り歩き

ったりと運行、滑車と綱で人形（天照大神像）を上下に動かし優美で壮麗な運行の姿は沿道を埋めた観衆を魅了した。

本年は幼稚園・保育園の子供山車を含め一六基の大型あんどん山車、更に、二基の太鼓山車の参加があり、それぞれ豪華さと、仕掛けのアイデアを競い、掛け声の勢いと踊りの躍動との融合性を観衆にアピール、最後に水しぶきの掛け合いで最高潮に達し町中を祭りムードに酔いしれさせた二日間であった。

。第六回しぶき祭山車審査の結果

市長賞

「風神と竜神」 中山・不二グループ

商工会議所会頭賞

「清正伝」 NTT滝川

観光協会会長賞

「竜神」 西地区商工振興会

優秀賞

「翔け屯田魂」 自衛隊滝川駐屯地

「双頭百年竜」 坂の上商店街振興組合

「飛翔」 滝川市役所

奨励賞

「となりのトトロ」 中央バスグループ  
「トトロ」 滝川消防署

努力賞

「天昇水神霊竜」 高林デパート  
「ゴジラと大ダコの決闘」 駅前商店街振興組合・西友  
「暫（しばらく）くと武者」 鈴蘭中央商店街振興組合  
「桃太郎」 北海道電力  
「武者と玩駄無」 ボーイスカウト

### 『滝川市民冬まつり』

滝川の市民冬まつりは、昭和五十三年に市内企業の有志（グリーンクラブ）によって立案実施されたのが始まりである。

その後、企業、市、自衛隊の物心両面にわたる支援を受け、回を重ねて本市の観光としての役割も注目されるに至った。

このことから昭和六十年より、たきかわ観光協会に引き継がれ、冬の唯一のイベントとして実施してきたところであるが、反面、雪像提供者の減少及び近隣市町での同規模開催、札幌雪まつり等の関係から再検討と方向転換をすべきとの反省点が出されてきた。また、経費について初めは企業協賛金によって賄われていたが、協会が主催するようになってからは、協会の年間事業費の中で実施、年々増額されるとともに、その効果等についても再考の必要性が指摘され検討が始められた。

第十二回の市民冬まつりを終えた段階から、次の諸点が課題として指摘された。

- 1 氷雪像提供者が年々減少の方向にあり、最近では実行委員会よりお願いして提供してもらっている現状がある。
- 2 氷雪像を見る冬まつりから、遊びやゲーム、催し物などに参加することに方向転換すべきではないかの意見が出されている。



滝川冬まつり

- 3 滝川ならではの催し物を考える必要がある。
- 4 近隣市町が同程度の規模で開催しており魅力に欠けてきた。
- 5 経費の面において年々増加、反面、効果的な要素が薄いとの見解がある。
- 6 製作費用において特定業者に多額の負担をかけている。

### 第十三回滝川市民冬まつり

前述のような経過と課題を踏まえ、観光協会常任理事会において協議を重ねた結果、次のように方針を定めた。

第十三回目より、氷雪像中心（見る冬まつり）から、催し物を主体とした冬まつりを実施する。この方向転換は冬まつりを発想、実施された方々の「冬期間市民が求める何かを」を基調に滝川市民が一人でも多く楽しめる冬まつりを目指し、将来的にも継続していく祭りを推進すると同時に、催し物において滝川ならではの目玉イベントを発想、実現するため若い人による研究グループの設置を行うこととした。

平成二年二月十一日から文化公園を主会場に開かれた第十三回の冬まつりは、あいにくの雨や吹雪に見舞われたまつりとなったが、八万六、〇〇〇人余りの人々が参集し例年と異なったまつりを楽しんだ。氷雪像は自衛隊駐とん地隊員の手に成る大雪像「アンペンマン」の一基だけではあったが、一二の食べ物模擬店を設置し地元の



滝川冬まつり

りとなった。

また、十二日の夜は、まつりのファイナルを飾る初の屋外ディスコ大会「ホワイトフェス・イン・ザ・ツウインクル・ムーヴメント」が、同じ会場で開かれ、吹雪まじりの天候であったが若者グループが続々と詰めかけ、盛大な打ち上げ花火を合図に、赤や黄色などのまばゆい照明の交差でファンタジックなムードと、会場中央の大音響装置からひびき渡るロックやポップスのリズムに誘われ若者たちの賑やかな祭典が繰り展げられた。

文化センターにおいては、前夜祭のカラオケ大会に引き続き、十一日、十二日の二日間にわたって吹奏楽の演奏、日本舞踊、ジャズダンス、モダンダンス、民謡歌謡曲の夕等のアトラクションが矢つぎ早やに公開され、「見る冬まつり」から「参加してみんなで楽し

味をふんだんに即売、食べながらのゲームが展開された。

自転車ペダルを踏む「人間発電コンテスト」、斜面を自動車用タイヤチューブで障害物に悩まされながら滑りおり当り穴にとびこむ「人間パチンコ」、「職場対抗綱引き大会」、まくら木を引っ張る「人間トロッコ大会」など、家族みんなで参加できるまつ

む冬まつり」への転換は確実に第一歩を踏み出し、次回への市民の期待を大きくふくらませた。

松尾ジンギスカン前での大氷像、中央児童センターにおける滝川建設まつり等、第十三回滝川市民冬まつりに協賛してのイベントが華々しく開かれたことは力強い限りである。

### 『コスモス祭り』

昭和六十二年一月、テレビ小説「チョッちゃん」の原作者黒柳朝は生まれ故郷の滝川市において講演しその中で「幼いころの滝川はコスモスの花が咲き乱れていました。今でもなつかしい美しい思い出です。滝川の街を再びコスモスで飾りませんか」と聴衆の市民に呼びかけた。



コスモス祭り

「小さな親切」運動滝川支部は直ちにこの呼びかけに応じコスモスによる花いっぱい運動の取り組みを始めた。同支部の実行委員長越沢三郎は、かつて訪れたことのある宮崎県生駒高原のコスモス園を思い出し宮崎県の知人に種子入手について依頼したところ当人はすでに他界しており落胆した。この話を伝え聞いたコスモス園の経営者宮崎交通株式会社岩満栄策社長が、南と北の交

流に一役買おうと、同年三月コスモスの種子二キログラムを無償で提供してくれた。贈られたこの種子は約一万袋に分けられ、市内小中学校や公共施設、ボランティア活動を行っている方々等に配られ、八月下旬に全市に見事な花を咲かせた。九月には「コスモスの会」が自主的に結成され発足するとともに、十月の採種に当っては市民総出の活動に発展した。

また、昭和六十二年九月にはこの「コスモスの花いっぱい運動」をきっかけに、「小さな親切」運動本部のシンボル・フラワーにコスモスが選定されたり、昭和六十三年一月一日には市民の強い要望もあって、コスモスが滝川市の「市の花」に制定されるなど、「コスモスのまち滝川」は全国的にも知られるようになった。更に、花を植えて育てるだけでなく、女性によるフェスティバルも開催され盛況を期したほか、コスモスの満開となる八月下旬には、全市挙げての楽しいイベント「コスモス祭り」の企画へと発展した。

・第一回コスモス祭り（昭和六十三年八月二十八日△日▽）

滝川市は市の花コスモスの一層の普及を願い、たきかわ観光協会と協力し「コスモス祭り」を企画した。その企画の大きなものとして、全国三四地方自治体がコスモスを市町村の花として制定していることからこれら市町村の友好の輪を広げ、日本列島グリーン大作戦の一環としてコスモスの植栽が大きく広がることを願って、コスモサミット・イン・滝川の主催をおり込むこととした。

コスモス祭りは農業協同組合をはじめ地元商工業者の協力を得て農業夏まつりを併せ、空知川緑地コスモス広場をメイン会場に、更

に隣接の文化センター、市民ゴルフ場、ソフトボール場等をサブ会場として、八月二十八日に行われた。

ステージ音楽、モデル撮影会、羊丸ごとフェア、ビール祭、コスモス杯ソフトボール大会、コスモスカップゴルフ大会、邦楽の調べなど多様な催事は集まった二万二、〇〇〇人の人々を堪能させた。

祭り前日の二十七日のコスモサミットでは、十六自治体の代表が参加、友好的な雰囲気の中に運動の進め方を話しあい宣言を採択して終了した。

〔第一回コスモサミット・イン・滝川宣言〕（抄）

第一回コスモサミット・イン・滝川に参加した十六の自治体の代表者は、「このころの時代」を迎えて、コスモスの花言葉である「まごころ」を大切に、コスモスを通じて日本列島がまごころで満たされるために一致団結して最大限の努力をばらうことを誓うものである。

・第二回コスモス祭り（平成元年八月二十七日△日▽）

前年の第一回が盛況の中に実施できたことから、〃コスモスの花咲くまち滝川市〃をキャッチフレーズに第二回目のコスモス祭りを開催した。

好天に恵まれ前年を上回る市民の参集があり次のようなイベントが繰り広げられた。

コスモス音楽祭、モデル撮影会、ビール祭、チャリティオークション、グライダーデモフライト、ラジコンデモンストラーション、熱気球試乗会、ゴルフ大会、ソフトボール大会、海牛マラソン、自衛隊音楽隊ドリル演奏、商店街ビックリ市、「チョッちゃん」こと黒柳朝も参加、もち撤き等、また、滝川市各種物産販売、企業キャ



コスモス祭り（栃木市大物産展）



コスモス祭り（名護市桜の女王）

ラクター商品の販売、各種団体からの模擬店出店も多数あつて終日賑わつた。参加者二万五、〇〇〇人。

・コスモス祭り要綱

主催 滝川市、たきかわ観光

実施 協会 コスモス祭り実行委員会

協賛団体 江部乙町商工会、江部乙町農業協同組合、コスモスの会、滝川市生涯学習振興会、滝川市商工会議所、滝川市商店街振興組合連合会、滝川青年会議所、滝川市農業協同組合、滝川市婦人団体連絡協議会、滝川市婦人ボランティアクラブ、小さな親切運動滝川支部（五十音順）

後援

開催場所

北海道新聞社、北海タイムス社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK  
メイン会場 空知川緑地コスモス広場  
サブ会場 空知川ソフボール場、市民ゴルフ場他



コスモス祭り（名護市大物産展）

※コスモス祭り・農業夏まつりアンケート結果

アンケート実施日 平成元年八月二十七日（日）  
アンケート実施場所 空知川緑地  
コスモス広場

1 解答者（年齢・性別）

計	性別		年代
	女	男	
一一	六	五	一〇未
二二	一七	六	二〇代
一八	一二	六	三〇代
四六	三〇	一六	四〇代
三二	一八	一四	五〇代
一四	八	六	六〇代
八	四	四	七〇代
六	三	三	計
一五八	九八	六〇	

2 解答者（住居）計一五八

市内 一三八人、道内 一九人、道外 一人、

3 解答者（職業）

二五	会社員
三三	公務員
五	自営業
七	農業
三四	学生
五四	その他 主婦・無職
一五八	計

4 解答結果

駐車場について		会場について		祭りを知った理由	来られた理由	問
㊤の不適当の理由	いかがですか	㊤の不適当の理由	いかがですか			
イ 遠い ロ 広すぎる ハ 狭すぎる ニ 歩行者にとって危険 ホ 誘導が悪い ヘ その他	イ 不適当 ㊤ どちらともいえない	イ 遠い ロ 広すぎる ハ 狭すぎる ニ その他	イ 不適当 ㊤ どちらともいえない	イ 滝川市広報 ロ イ以外の官公庁の発行物 ハ 新聞チラシ ニ 知人から ホ 案内看板など	イ 農業夏まつりに興味があった ロ コスモス祭りに興味があった ハ イ・ロの両方に興味があった ニ 旅の途中に立ち寄った ホ 買物の途中に立ち寄った ヘ その他	問
0 2 3 8 3 17	30 33 95	2 4 4 18	28 28 02	2 23 60 10 63	28 3 1 65 33 28	数 (人)
0 6 9 24 9 51 .0 .0 .1 .2 .1 .6	19 20 60 .0 .9 .1	7 14 14 64 .1 .3 .3 .3	17 17 64 .7 .7 .6	1 14 38 6 39 .2 .6 .0 .3 .9	17 1 0 41 20 17 .7 .9 .6 .4 .9 .8	率 (%)

イベントの内容について	模 擬 店 の		
	接客マナーは	価格は	種類は
イ 良 ロ 悪 ハ どちらともいえない	イ 良 ロ 悪 ハ どちらともいえない	イ 高 ロ 安 ハ どちらともいえない	イ 良 ロ 悪 ハ どちらともいえない
73 24 61	74 11 73	75 60 23	55 21 82
46 15 38 .2 .2 .6	46 7 46 .8 .0 .2	47 38 14 .4 .0 .6	34 13 51 .8 .3 .9

その他の意見・感想

- 。昼食となる商品がない
- 。遅く来たら片付けているところがある、時間はきちんと
- 。トイレが足りない
- 。きれいな会場、企画もよい
- 。市民の参加マナーを向上させたい
- 。商業者の出店が少ない
- 。サイクルロードを利用したイベントを考えたら
- 。近隣市町民への宣伝不足でないか
- 。品物が直ぐ売り切れてしまうところがあった
- 。会場案内が不親切で判らない
- 。座れる場所を多くしてほしい

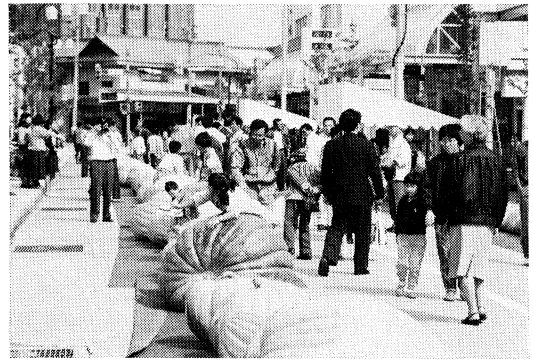
・第三回コスモス祭り(平成二年八月二十六日(日)▽)

第十九回農業夏まつりと併せてのコスモス祭りは、滝川市の開基一〇〇年を祝う趣意もあり、工夫されたイベントに満ちた心豊かで充実した一日となった。



桜まつり風景（滝の川公園）

優雅な振り付けと仕舞振りには拍手が絶えなかった。日本三大太鼓の一つに数えられる「大館曲げわっぱ太鼓」は、ロックバンド・シンセサイザー・津軽三味線など他の音楽とのジョイントを果敢にこなし、その音楽性は全国的に高く評価されているもので、空知川河畔に響き渡る勇壮なリズムと気合のこもった所作は参集した人々を熱狂さ



おーいでっかいどうかぼちゃ大会風景（ベルロード）

祭りの開催要領は前回とほぼ同様なものではあったが、名護市・栃木市・大館市の協力を得てそれぞれのまちを象徴する催事が盛りこまれたことから内容豊かな祭りとなり特徴的であった。

栃木市と名護市の特産物販売

コーナーは人気が高く、一日中

黒山の人波に囲まれ友好親善の

実を挙げた。また、琉球踊りは

沖縄の独特なメロディにのった

優雅な振り付けと仕舞振りには

拍手が絶えなかった。日本三大

太鼓の一つに数えられる「大館

曲げわっぱ太鼓」は、ロックバ

ンド・シンセサイザー・津軽三

味線など他の音楽とのジョイン

トを果敢にこなし、その音楽性

は全国的に高く評価されている

もので、空知川河畔に響き渡る

勇壮なリズムと気合のこもった

所作は参集した人々を熱狂さ

せ、感動の渦にまきこんだといえる。

名護市の桜の女王の撮影会、愛は地球を救う募金協賛のNTTルル号の参加と募金活動などもあり、二万五、〇〇〇人の参集者にとって心に残るコスモス祭りとなって終了した。

滝川市では、「桜まつり」、「おーい、でっかいどう、かぼちゃ大会」等が毎年開かれ、市民をはじめ、近隣の住民が大勢集まり、楽しいひとときを過ごし、明日への活力をうみ出している。